

一般社団法人
品質工学会
2021年度 定時社員総会

日時： 2021 年 6 月 25 日(金) 9:30~10:10

場所： 統計数理研究所(立川)、学会事務所(水道橋)

およびリモート環境

開会

会長挨拶

議事録署名人の選定

議事

[審議]

第 1 号議案 2020 年度事業報告

第 2 号議案 2020 年度決算報告

[報告]

(1) 2021 年度 事業計画案

(2) 2021 年度 予算案

[紹介]

(1) 2021 年度 支援会員

(2) 2020 年度 貢献賞受賞者

閉会

※ 本資料および関連資料は
こちらからも参照できます。



品質工学会公式ホームページ
<http://www.rqes.or.jp/>

2021 年度 代議員名簿

(選挙区ごと五十音順/敬称略)

選挙区	氏名	所属	選挙区	氏名	所属
北海道東北	植 英規	福島工業高等専門学校	甲信越北陸	青木 規泰	(株) 松浦機械製作所
	坂川 義満	坂川品質相談所		伊勢 大成	福井工業高等専門学校
	佐々木 市郎	アルプスアルバイン(株)		嘉指 伸一	嘉指技術品質研究所
	佐藤 幸太	光ガラス (株)		木下 秀明	テルモ (株)
	清水 友治	岩手大学		熊坂 治	(株) 産業革新研究所
	白木 信	アルプスアルバイン (株)		佐々木 賢	(株) ノトアロイ
	滝田 祐一	日立Astemo(株)		高田 圭	セイコーエプソン (株)
	手島 昌一	アングルトライ (株)		武澤 泰則	(株) 松浦機械製作所
	三森 智之	アルプスアルバイン (株)		中澤 和彦	アルプスアルバイン(株)
	山野 竹秀	アルプスアルバイン(株)		中西 貴志	EIZO (株)
関東	明石 一弥			畠山 鎮	YKK (株)
	池嶋 昭一	理想科学工業 (株)		浜田 真	北陸職業能力開発大学校
	石井 克明	群馬県繊維工業試験場		早川 幸弘	富山高等専門学校
	石井 尚正	群馬県立 高崎産業技術専門学校		増田 雪也	(有)増田技術事務所
	大野 純一	新電元工業(株)		水谷 淳之介	富山高等専門学校
	金本 良重	金本品質技術研究所		宮川 和博	山梨県産業技術センター
	鏡田 哲志	群馬県立群馬産業技術センター		山本 桂一郎	富山高等専門学校
	河田 直樹	埼玉工業大学	東海	生駒 亮久	
	久米原 宏之	(一財) 地域産学官連携ものづくり研究機構		大見 健児	(株) ダイセル
	斎藤 淳一	(株)ミツバ		岡本 利雄	(一社)中部品質管理協会
	榊 卓也	日本光電工業(株)		川口 保彦	ブラザー工業 (株)
	鷲谷 武明	太陽誘電 (株)		北 英紀	名古屋大学
	櫻井 文仁	群馬工業高等専門学校		越水 重臣	産業技術大学院大学
	田村 寿人	キャノンファインテックニスカ (株)		田中 靖久	住友電装(株)
	二ノ宮 進一	日本工業大学		玉木 淳	三菱ケミカル(株)
	深澤 宏	(株) ウテナ		中条 孝則	富士電機 (株)
	福島 祥夫	埼玉工業大学		中村 創一	三重県工業研究所
東京	船戸 吉幸	(株) アルビオン		針幸 達也	静岡県工業技術研究所
	矢野 耕也	日本大学		藤本 亮輔	芝浦機械 (株)
	山口 信次	高知工科大学		森 輝雄	森技術士事務所
				山口 直樹	(株)アイシン
				吉野 節己	三宝化学工業 (株)
	江末 良太	(株)IHI	関西	井上 徹夫	(株) シマノ
	小川 豊	東芝エレベータ (株)		太田 勝之	(株)シマノ
	奥山 奥士	ユニカミノルタ (株)		奥村 進	公立大学法人滋賀県立大学
	小澤 修	(一財) 日本規格協会		側 友宏	パナソニック (株)
	小平 努	(株) アルビオン		越山 卓	(有キューイーエム
	杉山 一宏	公益財団法人 東京都中小企業振興公社		芝野 広志	
	田口 伸	American Supplier Inst. Inc.		高濱 正幸	三菱日立パワーシステムズ (株)
	土屋 元彦			鐵見 太郎	三菱電機 (株)
	中島 建夫	東京慈恵会医科大学		中尾 誠仁	(株) ネオス
	中島 尚登	無所属		原 和彦	
	見原 文雄	のっぽ技研	中国四国	原 宣宏	摂南大学
	長谷部 光雄	(株) 日立アカデミー		山口 新吾	パナソニック (株)
	日座 和典	松坂ティーエムコンサルティング (株)		渡辺 誠	(株)リコー
	松坂 昌司	IHI		岩永 禎之	四国職業能力開発大学校
	茂木 悠佑			上原 一剛	米子工業高等専門学校
神奈川	青木 昭夫	帝京大学		大塚 宏明	マツダ (株)
	阿部 誠	(株) いすゞ中央研究所		小野 正幸	DOWA IPクリエイション (株)
	安藤 力	富士フイルムビジネスソリューション(株)		桑原 修	(公財) 広島市産業振興センター 工業技術セ
	飯島 清高	富士ゼロックス (株)		賣山 靖浩	リョービ (株)
	稲垣 雄史	統計数理研究所		武重 伸秀	マツダ(株)
	宇田川 浩二	富士ゼロックス (株)		西野 精一	阿南工業高等専門学校
	熊谷 保昭	CIG Photonics Japan(株)		深堀 貢	マツダ (株)
	坂本 慎太郎	(株)リコー		山口 大造	津山工業高等専門学校
	佐々木 康夫	キャノン (株)	九州	石田 秀一	(国研) 産業技術総合研究所
	佐藤 和彦	三菱電機 (株)		石田 雄二	西日本工業大学
	春名 一志	日本精工 (株)		五島 伸洋	TOTO(株)
	曾我 光英	神奈川県立産業技術総合研究所		植原 弘之	九州工業大学
	高橋 和仁	日産自動車 (株)		成田 秀夫	(株)安川電機
	西野 真司	(株) 小松製作所		平井 智紀	佐賀県工業技術センター
	細井 光夫	ソニーセミコンダクタソリューションズ (株)			
	本田 忠行	(株)リコー			
	松下 誠	花王 (株)			
	丸山 修司	日産自動車 (株)			
	茂木 徹				

総計 125 名

品質工学会の目指すところ、ビジョン 30、大切にすること

制定 2017 年 6 月 22 日 一般社団法人 品質工学会

品質工学会は、田口玄一博士の提唱する品質工学の開発・研究を行い、考え方・手法を提供してきました。25 周年を機会に一般社団法人として新たな活動を開始いたしました。ここに未来に向けて会員が目指すところ、ビジョン、そして大切にすることについてまとめました。

目指すところ

品質工学の開発・研究を通じて、あらゆる分野における総合的な評価体系を提供することで以下に貢献します。

1. プロセスの生産性の向上
2. 製品・サービスの創出
3. より豊かで自由な社会の実現

ビジョン 30

30 周年に向けて、常に全体最適を考え、いかなる場合も顧客視点での評価技術を継続的に提供し、以下を実現します。

“あらゆる分野に評価でイノベーションを”

1. 自己実現と社会認知
2. 新しい品質工学の考え、手法の開発
3. イノベーションへの貢献

大切にすること

私たちは、田口玄一の考え、考え方を良く理解し、以下のことを大切にして行動します。

1. 高い志で創意工夫し、目的志向で継続的に取り組みます
2. 機能性評価と最適化の考え・手法を開発します
3. オリジナルな研究を実例で行います
4. 正しさの追究でなく、経済的な優劣で議論します
5. 成果を広く社会に発信し、普及します
6. 専門技術の開発を支援します
7. 全体最適化の視点で研究します
8. 先行性、汎用性、再現性を確保し、技術開発の効率を追求します

会の運営の考え方

大切なことを基本に、目指すところ、ビジョンを達成するため次のことを定めて運営します。

1. 法令と社会規範を遵守し公正・健全な学会活動を行います
2. 互いの人権・個性・価値観など多様性を尊重します
3. 学会の持続的成長を目指し、自由闊達な学会活動の環境を提供します

審議

第 1 号議案 2020 年度事業報告

この法人の目的を達成するためとして、定款第 5 条に列挙した事業項目について、2020 年度の実施および結果と、さらに今後の課題について報告します。

定款第 2 章「目的および事業」より

第 4 条（目的） この法人は、専門技術の開発・研究・改善のために行われる諸活動を促進させるために、その基本的な工学である品質工学の研究、普及、研究発表および情報交換を行い、総合的な評価体系を構築し、もって社会の生産性向上に寄与することを目的とする。

第 5 条（事業） この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成
- (2) 品質工学の普及、およびその奨励、助成
- (3) 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰
- (4) 学会誌その他の刊行物の発行
- (5) 研究発表大会、研究集会、講演会、展覧会、講習会、見学会等の開催
- (6) 品質工学情報の収集、提供
- (7) 内外の関係団体との連絡および提携
- (8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第 1 号議案 2020 年度事業報告 目次

概況

1. Vision30 実現のための主要活動
2. 役員、執行体制および会議等の開催
3. 会員状況

事業

(1) 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

- 1.1. 田口の考え方の収集・整理
- 1.2. 研究会との連携強化
- 1.3. 品質工学の体系化
- 1.4. 品質工学新領域開拓
- 1.5. 品質工学手法研究

(2) 品質工学の普及、およびその奨励、助成

- 2.1. 資格制度の制定
- 2.2. 品質工学教育特別講座の開催
- 2.3. 解析支援ツールの提供
- 2.4. 広報活動の強化
- 2.5. 工業技術センターを通じた普及の検討

(3) 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰

- 3.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞
- 3.2. 品質工学会 ASI 賞
- 3.3. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞
- 3.4. 研究発表大会 会長賞/実行委員長賞
- 3.5. 日本規格協会 理事長賞
- 3.6. 学生賞
- 3.7. 田口賞
- 3.8. 功労賞
- 3.9. 貢献賞

(4) 学会誌その他の刊行物の発行

- 4.1. 学会誌「品質工学」の発行
- 4.2. 同誌掲載論文のレビュー
- 4.3. 同誌の編集と投稿数の増加施策

(5) 研究発表大会、研究集会等の開催

- 5.1. 品質工学研究発表大会
- 5.2. ICRQE2021
- 5.3. 品質工学技術戦略発表大会
- 5.4. 企業交流会
- 5.5. 経営交流会
- 5.6. 学校交流会

(6) 品質工学情報の収集、提供

- 6.1. 論文電子公開(J-Stage)
- 6.2. 事例データベースの作成
- 6.3. 品質工学用語集の作成

(7) 内外の関係団体との連絡および提携

- 7.1. 日本規格協会
- 7.2. 日本品質管理学会
- 7.3. 産業技術総合研究所
- 7.4. 農林水産省
- 7.5. JAXA
- 7.6. 消費者庁

(8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- 8.1. 会議体運営
- 8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)
- 8.3. 代議員選挙の運営
- 8.4. 新型コロナウイルス感染対応
- 8.5. 規程整備

概況

2020 年度は、制定した「理想を目指して 新たな品質工学の道」を活動の拠り所とし、「Vision30」を制定し、実現するために策定した中長期計画を実行するプロジェクト活動を行ってきました。各活動は事業部会へ展開するとうじに、展開できないプロジェクトには委員会を設け実行してきました。活動の内容は以下ようになります。

1. Vision30 実現のための主要活動

ビジョン 30 のねらいである『あらゆる分野に評価でイノベーション』を設定し、三つの分野に展開して活動してきました。

1. 自己実現と社会認知
2. 新しい品質工学の考え、手法の開発
3. イノベーションへの貢献

2020 年度は、19 年度までの活動を確実に実施するとともに、あらたな活動を開始しました。特に、1 に関係し、他学会との共同活動として(一社)日本品質管理学会との共同プロジェクトを立ち上げ、新しい研究を開始しました。研究した結果については都度に学会誌を通じて報告してきました。各ビジョン達成項目の概要は以下ようになります。また、各プロジェクトは部会で展開しておりますので、詳細は部会の活動の欄で報告をいたします。

1) 自己実現と社会的認知活動の概要

① 教育・育成の機会の提供

開発したパラメータ解析ソフトウェアの提供を始めました。さらに MT 法の解析法も開発し、総合解析ソフトとして会員に提供を始めました。これで、会員がパラメータ設計と MT 法の基本的な解析ができるようになり、独自に解析プログラム等を組む必要がなく、実践における解析面での障害を取り除けると期待できます。

この開発した解析ソフトを用いたパラメータ設計の入門コースを新設し、トライアルを行いました。また継続してパラメータ設計、MT の教育も行ってきました。田口の原著を中心とした講義が好評となりました。

② 研究・開発の場の設定

・他の専門部会とのジョイント研究として、日本品質管理学会と共同の研究活動を開始しました。20 年度は活動のテーマ選択など構想をねり、ワーキング部会を設定し活動を開始しました。

・教育委員会が構想してきた学生のための研究発表会が本年開催されました。活発な討議ができ、今後の学校への普及について知見がえられました。

・消費者庁からの依頼で、消費者庁の電動アシスト自転車の評価プロジェクトに参加しました。顧客の視点から MT 法を用いた機能性評価により安全性への指針作成に貢献しました。

③ 自己実現レベルの認知

品質工学エンジニア認定制度ができ、二年目の募集を行い、1 名を品質工学マスターエンジニアに認定しました。

④ 情報の提供

・インターネット部会を通じて、ホームページをリニューアルすると同時に情報の提供を充実するよう検討しました。

⑤ 知識の構造化

・田口玄一博士の考え方の構造化検討を継続し、20 年度は、学問の視点から検討し、工学を規

定し、品質工学を 20 の要素に整理しその構造を明らかにし、会誌に検討結果で報告しました。さらに、2021 年度から 20 の要素についてテキスト化すべく、執筆のための仕様書を作成しました。また、田口先生の過去論文リストと書籍を調査し、目録を作成しました。

2) 新しい品質工学の考え・手法の開発

開発工程別に品質工学の適用方法についてまとめることを計画していました。20 年度は、品質管理学会との共同活動の中で、損失関数の利用に関するワーキンググループを設定し活動を開始しました。

3) イノベーションへの貢献

① 地域産業へのイノベーション

・地域には、品質工学研究会がありそれぞれ研究を行っています。品質工学会との関係性を明確化すべく、公認研究会としての関係性を明らかにする活動をしました。

② 国家レベルのイノベーション

a) 産業総合研究所が主導するミニマルハブ開発への支援活動を予定しておりましたが、コロナの影響もあり活動ができませんでした。

b) JAXA のロバスト設計標準書作成共同プロジェクト: JAXA との共同研究として、2020 年度はロバスト設計の標準書の作成を昨年より継続しました。活度の結果、標準書の案を作成し、JAXA での審議の結果、標準書の制定となりました。今後、この標準を利用した航空宇宙領域でのロバスト設計が進むことが期待されます。継続した支援をしていきます。

c) 農水省との共同活動はコロナ関係もあり進展がありませんでした。

2. 役員、執行体制および会議等の開催

◆2020～21 年度役員

2020 年度は、2019 年度に引き続き同様の体制(任期 2 年)で運営してきました。

(敬称略)

代表理事 椿 広計

理事 上杉 一夫、衛藤 洋仁、太田 勝之、大村 欽也、救仁郷 誠、芝野 広志、
須江 雅彦、田口 伸、武重 伸秀、田村 希志臣、近岡 淳、千葉 亨、永田 靖、
檜原 弘之、浜田 和孝、藤本 隆宏、細川 哲夫、水谷 淳之介、宮川 雅巳、
矢野 耕也、山戸田 武史、山本 桂一郎、吉川 勝也、吉澤 正孝、吉原 均
… (25 名)

副理事 安藤 力、安藤 欣隆、糸久 正人、大越 問、大塚 宏明、河田 直樹、喜多 和彦、
熊谷 保昭、熊坂 治、近藤 芳昭、坂本 雅基、佐々木 康夫、沢田 龍作、
塩沢 潤一、高辻 英之、高松 喜久雄、武澤 泰則、満嶋 弘二 … (18 名)

監事 折戸 文夫、久米原 宏之 … (2 名)

◆執行体制

執行のための組織(部会/委員会)と担当理事を明記した体制を示します。前年度と同様の「事業・組織・技術」の3統括部体制であります。

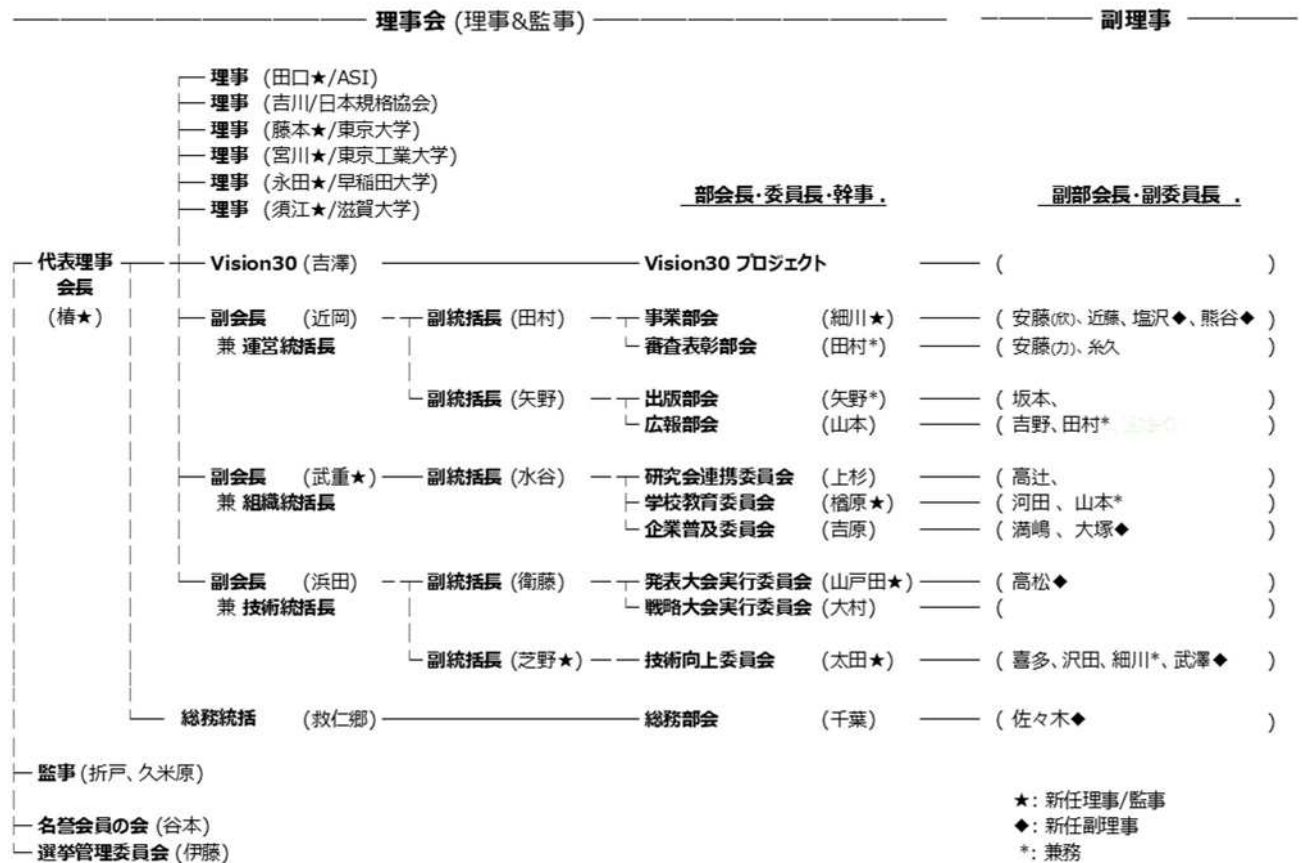


図 2020 年度 執行体制

(敬称略)

◆会議等

- 1) **定時社員総会:** 2020 年 7 月 16 日(木) 11:00~12:00、学会事務所(水道橋)よりリモート環境で開催しました。
 [審議事項] 第 1 号議案 2019 年度事業報告、第 2 号議案 2019 年度決算報告、
 第 3 号議案 理事改選
 [報告事項] (1) 2020 年度事業計画、(2) 2020 年度予算案
 [紹介事項] (1) 2019 年度支援会員、(2) 2019 年度品質工学会貢献賞受賞者
- 2) **理事会:** 定款第 31~36 条に規定される「この法人の業務執行の決定機関」として、定例(6、9、12、3 月)の 4 回と、メール審議 1 回の計 5 回開催しました。
- 3) **部会長会議:** 学会運営の執行に関わる検討・論議、情報共有、調整および進捗管理のための会議体で、1 回/月(原則第 2 水曜)、第 166 回(2020/4/9)から第 177 回(2020/3/9)までの 12 回開催しました。

表 2019 年度の主要な事業および学会運営

		事業		学会運営	
		主要イベント	出版	会議体	
				部会長会議	理事会
2020年度	4		学会誌 ・Vol.28, No.2	・定例(4/9)	
	5			・定例(5/14)	
	6	・研究発表大会(中止)	・Vol.28, No.3	・定例(6/11)	
	7	・総会(7/16) リモート開催		・定例(7/9)	
	8		・Vol.28, No.4	・定例(8/12)	
	9	・企業交流会 (9/4) JAXA筑波宇宙センター発リモート開催		・定例(9/9)	・定例(9/9)
	10		・Vol.28, No.5	・定例(10/14)	
	11	・次世代経営研究会 第1回 (11/17) リモート開催 ・技術戦略発表大会(11/27) リモート開催		・定例(11/11)	
	12		・Vol.28, No.6	・定例(12/9)	・定例(12/9)
	1			・定例(1/13)	
	2	・特別講座「MTシステム」(2/12) ・次世代経営研究会 第2回 (2/15) リモート開催	・Vol.29, No.1	・定例(2/10)	
	3	・学校交流会(3/5) リモート開催 ・特別講座「パラメータ設計解析支援ツール」(3/12)		・定例(3/9)	・定例(3/9)

3. 会員状況

1) 個人会員(正会員・学生会員・名誉会員)

2021 年 3 月 31 日時点で会員状況は次の通りです。

表 2020 年度末 個人会員数

名誉会員	11 名
正会員	1017 名
正会員 (海外会員)	21 名
学生会員	5 名
計	1054 名

個人会員数は 2021 年 3 月末時点で 1154 名となり、前年度に対し 88 名減少しました。

会員数はリーマンショック(2007 年)以降減少に転じて以来その傾向が続いています。但し、2020 年度はコロナ感染による諸活動の停滞、またそれによる発表大会の中止の影響もあり、新規の入会者が例年の半数近くまで減ったものの、退会者も減ったことで、全体としての減少は例年並みに収まりました。

表 2017～20 年度 個人会員数推移

		年度			
		2017	2018	2019	2020
増	入会	96	104	89	51
	復会	0	0	0	0
	小計	96	104	89	51
減	休会	1	1	0	2
	退会 (逝去)	2	1	3	1
	退会 (退会届)	151	165	158	127
	退会 (資格喪失)	17	19	21	9
	小計	171	186	182	139
増減		-75	-82	-93	-88
期末	在会者数	1317	1235	1142	1054

会員の皆さんに納めていただく会費は学会総収入の約 30%であり、学会の運営基盤です。そのため、健全で有益な学会活動を実施するには一定数の会員数確保は不可欠で、会員数の減少を抑えること、入会者を増やすことは学会運営上の大きな課題です。

2) 名誉会員

2021.3.31 現在の名誉会員は以下の皆様です。(敬称略、五十音順)

伊藤 源嗣	稲生 武	紙本 治男	鴨下 隆志	草間 三郎
小池 昌義	土屋 元彦	中島 建夫	原 和彦	矢野 宏

3) 賛助会員

2020 年度の賛助会員は次の通りです。年度中に 1 団体が入会され、計 28 団体(31 口)の皆様から学会活動への支援をいただきました。

表 2020 年度 賛助会員

	会員番号	名 称	口数	備考
1	90002	古河電気工業(株)	1	
2	90007	富士フイルム(株)	1	
3	90008	富士ゼロックス(株)	2	
4	90010	(株)不二越	1	
5	90013	マツダ(株)	1	
6	90015	(株)ツムラ	1	
7	90016	いすゞ自動車(株)	1	
8	90025	三菱重工業(株)	1	
9	90030	東日本旅客鉄道(株)	1	※ 2021/3/31付退会
10	90037	コニカミノルタ(株)	1	
11	90038	キャタピラージャパン合同会社	1	※ 2021/3/31付退会
12	90043	(株)小松製作所	1	
13	90053	(株) I H I	2	
14	90059	(一財)日本規格協会	2	
15	90065	富士ゼロックスマニュファクチャリング(株)	1	
16	90066	デンソーテクノ(株)	1	
17	90067	(株)松浦機械製作所	1	
18	90069	新電元工業(株)	1	※ 2021/3/31付退会
19	90070	Y K K(株)	1	
20	90071	(株)ノアロイ	1	
21	90072	アイコクアルファ(株)	1	
22	90073	アルプスアルパイン(株)	1	
23	90074	トヨタ自動車(株)	1	
24	90077	本田技研工業(株)	1	
25	90079	K Y B(株)	1	
26	90080	(国研)宇宙航空研究開発機構	1	
27	90081	(一社)日本品質管理学会	1	
28	90082	アネスト岩田(株)	1	※ 2020/10/1付入会 2021/3/31付退会
	計	28団体	31	

事業

(1) 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

1.1. 田口の考え方の構造化

…… Vision30 プロジェクト

田口玄一博士の考え方の構造化検討を継続し、20 年度は、学問の視点から検討し、工学を規定し、品質工学を 20 の要素に整理しその構造を明らかにし、会誌に検討結果で報告しました。さらに、2021 年度から 20 の要素についてテキスト化すべく、執筆のための仕様書を作成しました。また、田口先生の過去論文リストと書籍を調査し、目録を作成しました。

1.2. 研究会との連携強化

…… 研究会連携委員会

1) 研究会連携委員会活動

6 月に 17 研究会、9 月に中国品質工学会が理事会にて公認研究会に認定され、研究会委員も推薦してもらいました。11 月以降、活動計画の見直しを行いました。その結果、

(1)横通しの連携を促進すること

(2)地方研究会と連携して企業向けテキストを作成し、地方研究会を通して企業普及をはかること

この 2 つを実施することで、会員増加、発表論文件数の増加、学会と地方研究会の共存・共栄につなげることにしました。

2) 研究会による研究（大会発表・論文掲載）件数の増加

残念ながら RQES2020S に発表予定だった事例については学会誌への投稿呼びかけは不十分でした。新たに見直した活動計画の中で効果を出したいと考えております。

3) 研究会と学会が共存・共栄できるエコシステムの構築

① 全国研究会活動展/研究会懇談会の企画と実施・・・コロナ禍のため実施できませんでした。

② 研究会との連携強化・・・具体的な強化施策は実施しませんでした。

新たに見直した活動計画の中で連携を強化していきます。

4) 会員増加策の実施

残念ながら、具体的な会員増加策を実施できませんでした。新たに見直した 2021 年活動計画の中で効果を出していきます。

5) 学会誌への研究会報告掲載

学会誌掲示板への研究会報告投稿のサポートを継続して実施中です。

1.3. 品質工学の体系化

…… 技術向上委員会

事例データベースの作成・・・過去の研究論文（学会誌、大会予稿集）について、体系化した品質工学データベースを関西品質工学会有志の協力を得て作成中です。1993 年～1998 年、2000 年、2001 年、2017 年～2019 年は完了しました。

1.4. 品質工学新領域開拓

…… 新規事業委員会、技術向上委員会

技術向上委員会独自での活動はなく、事業部会新規事業委員会の「商品開発プロセス研究会」での WG 活動に委員として継続参加しました。

新商品開発プロセス研究会

一般社団法人日本品質管理学会と共同の研究会「商品開発プロセス研究会」は両学会の理事会の承認を経て 2018 年 11 月に正式に発足し、活動を活発に継続しています。開始時のメンバーは 22 名ですが、現在は 31 名になっています。主査として日本品質管理学会からは統計数理研究所・所長/

椿広計氏、品質工学会からは(有)近岡技術経営研究所/近岡淳氏、幹事は電気通信大学准教授/山本渉氏、(株)リコー/細川哲夫氏が担っています。2019 年度は研究のさらなる促進のために以下の三つのWGを設置し、研究の主体は各 WG に移し、全体委員会では各 WG からのアウトプットの整理と外部有識者との交流を進めています。現在WG毎の研究会をほぼ毎月開催しており、全体会合は 3 か月毎の開催としています。マイルストーンとして日本品質管理学会の研究発表会（11 月）、品質工学会の研究発表大会（6 月）に中間の研究報告を行っています。

2020 年度は 11 月 28 日（土）に日本品質管理学会研究発表会にて企画セッション（90 分、参加者約 50 名）として発表を行いました。

- *WG 1：次世代 QFD の開発（幹事：旭化成(株)原田洋一郎氏）
- *WG 2：創造性と効率性を両立した技術開発プロセスの研究（幹事：(株)リコー細川哲夫氏）
- *WG 3：商品開発プロセスにおける様々な意思決定に損失関数を活用する方法に関する研究
（幹事：慶應義塾大学教授山田秀氏）

2020 年度は各 WG 個別の活動を重点的に実施してきました、それらを合わせたトータルプロセスの構築は 2021 年度に取り組む予定としています。

以下、WG 毎の活動実績を報告いたします。

*WG1：幹事 旭化成(株) 原田 洋一郎 氏

研究の方向性を定めるとともに、この分野の専門家の先生をお招きして講演を開催し、最先端にキャッチアップする活動を継続しております。お招きした方々は以下となります。

(有)アイテムツーワン元代表取締役 福原澄氏 QFD について
成城大学名誉教授 神田範明氏 Neo-P7 について
東京理科大学名誉教授 狩野紀昭氏 狩野モデルについて
明治大学教授 戸谷圭子氏 サービスドミナントロジックについて。

*WG2：幹事 (株)リコー 細川 哲夫 氏

「創造性と効率性を両立した技術開発プロセスの構築」というテーマで、ベンチマークに設定した米国の DFSS を超えるプロセスを目指した研究活動を実施しました。約 2 年間の活動の結果、今年度は 7 つの要素からなる技術開発プロセスのプラットフォーム"TF"を確立することができました。ここに至る過程で、2 件の発表を行いました。

- ・「DFSS をベースとした技術開発プロセスの実践」
第 13 回品質工学技術戦略発表大会 2020.11.27
- ・「WG-2」「創造性と効率性を両立した技術開発プロセスの構築」の活動報告」
日本品質管理学会第 50 回年次大会 企画セッション 2020.11.28

*WG3：幹事 慶應義塾大学 山田 秀 氏

品質工学における損失関数は、技術開発・製品開発段階において使用段階における顧客の損失を予測するための評価関数ととらえられます。WG 3 ではこの考え方を拡張し、事業の不確実性なども考慮しつつ、事業開発プロセスにおける評価項目、評価関数、評価のための指針などをまとめることを目指しています。本年度は 損失関数を使った新規機能価値の分析手順、リアルオプションの考え方に基づく事業プロセスモデル各ゲートにおける意思決定のための評価などを中心に検討を進めました。

1.5. 品質工学手法研究

..... 技術向上委員会

現状研究の課題を委員会メンバー間で共有したところで、具体的な進捗はありませんでした。

現状認識として、品質工学の研究論文に対する評価が低いこと、そのために、論文の古城が必要で、最終的には博士論文レベルを目指すことを共有しました。

(2) 品質工学の普及、およびその奨励、助成

2.1. 品質工学エンジニア認定

..... 審査表彰部会

会員の社会的な認知を目的として、2019 年度に品質工学エンジニア認定制度を設けました。2020 年度は 1 件の応募申請があり、事前審査および本審査の結果、田村希志臣氏を品質工学フェローエンジニアに認定しました。

2.2. 品質工学教育特別講座の開催

..... 事業部会

2020 年度実施した特別講座は MT システムのみで、学会誌 7 月号に実施報告を掲載します。実施済みの計 8 回の特別講座全体に関する座談会は企画中で、実施は 2021 年度に繰り延べます。

特別講座については、新型コロナのためリモート開催としました。パラメータ設計コースは Web 形式への準備不足で中止し、MT コースのみを開催しました。Web 形式は場所を限定しないので、東京以外の会場での開催の検討は当面中止します。

パラメータ設計解析支援ツールを活用した入門者向けの講座は普及 WG により 2020 年度中に開催いたしました。

Web 講座の新規企画は、特別講座のリモート化および普及 WG 実施の解析支援ツール（パラメータ設計）講座の実施を優先したため、2021 年度に繰り延べます。

2.3. パラメータ設計解析支援ツールの提供

..... 事業部会

2020 年 4 月 1 日から MT 法解析支援ツールを学会のホームページからダウンロードできるようにいたしました。また会員全員告知メールで提供開始のお知らせを致しました。

パラメータ設計解析支援ツール及び MT 法解析支援ツールのフォローを引き続き実施しております。

パラメータ設計解析支援ツールを活用した入門者向けの講座を新規に企画し、2021 年 3 月 12 日にリモート講座として実施いたしました。

当初の事業計画にはありませんでしたが、賛助会員企業向けに解析支援ツールの提供を始めました。

2.4. 広報活動の強化

..... 広報部会

1) 広報宣伝活動について

- ・今年度はコロナウイルス感染症の影響のため学会イベントの中止に伴い、できる限りの広報活動を実施しました。特に学会 Web ページの充実には力を入れました。
- ・情報発信領域についての課題整理を行いました。品質工学の基礎知識の内容について刷新しました。
- ・第 28 回研究発表大会の中止に伴いカタログ展示を実施することができませんでした。カタログ展示の運営方法について再検討を行い、広報部会主体で実施する展示について検討しました。
- ・学会誌への広告掲載数の維持を図れるようにいたしました。
- ・第 28 回研究発表大会の中止に伴い実施することができませんでした。
- ・第 13 回品質工学技術戦略研究発表大会の宣伝告知を実施、参加者の確保に努めました。

2) 学会ホームページについて

- ・ホームページを通して提供する会員サービスの拡充を図るべく、総務部会、事業部会と連携して内容構成の拡充を具体的に進めました。

- ・ホームページへの掲載フローを整理して、各部会からの掲載依頼に対して迅速に対応できるようにしました。

2.5. 工業技術センターを通じた普及の検討

…… 企業普及委員会

田口の考え方構造化との連携、研究会連携委員会、教育・普及委員会の活動に参画などの活動を通じて、品質工学会内のノウハウ、アイテム等の活用検討を実施。新型コロナの影響などのため、研究会の設立には至らなかったが、2021 年にセンターで主宰する品質工学セミナーへの講師派遣を要請され対応する。

(3) 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰

- ・27 名の表彰審査委員による論文賞表彰審査会を 2 月 13 日に開催し、論文賞金賞 1 件、銀賞 2 件を選定しました。
- ・ASI 賞 1 件、学生賞 3 件を選定しました。
- ・日本規格協会理事長賞の本審査会を 2 月 26 日に開催し、規程に沿って 1 件の授賞を決定しました。
- ・各賞の授賞について学会誌 4 月号に会告を掲載しました。
- ・表彰体系の整理、新たな表彰追加について部会内で検討を開始しました。また、大会発表賞の表彰審査基準の見直し検討に着手しました。

3.1. 公益財団法人 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞 …… 審査表彰部会

品質工学の研究を奨励し、技術の発展と社会の充実に貢献することを目的として、公益財団法人精密測定技術振興財団が贈呈する賞です。

金賞 鋼材溶接継手を対象とした

継手剛性の SN 比と疲労寿命の SN 比の関係に関する基礎検討 - Vol.28 No.6

津村 秀一 (海上技術安全研究所 正会員)

銀賞 無人化工場を実現するための

JIS Z 9090 に基づく計測能力検証と計測信頼性向上活動 - Vol.28、No.4

麴谷 幸久、中村 高士、畠山 鎮 (YKK(株) 正会員)

銀賞 組み立て精度作業の能力評価 - Vol.28、No.3

青木 規泰 ((株)松浦機械製作所 正会員)

矢野 宏 (応用計測研究所(株) 正会員)

3.2. ASI 賞

…… 審査表彰部会

米国において紹介するにふさわしい論文・報文に贈呈される賞です。審査は、ASI 社(American Supplier Institute Inc.)で行われ、賞は同社から贈呈されます。

ASI 賞 無人化工場を実現するための

JIS Z 9090 に基づく計測能力検証と計測信頼性向上活動 - Vol.28、No.4

麴谷 幸久、中村 高士、畠山 鎮 (YKK(株) 正会員)

3.3. 公益財団法人 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 …… 審査表彰部会

コロナウイルス感染拡大防止のために研究発表大会を中止にしたことにより、授賞なし。

3.4. 品質工学研究発表大会 会長賞および実行委員長賞 …… 会長、発表大会実行委員長

コロナウイルス感染拡大防止のために研究発表大会を中止にしたことにより、授賞なし。

3.5. 一般財団法人 日本規格協会 理事長賞 …… 審査表彰部会

品質工学に関連して、広く日本の標準化活動に貢献すると考えられる成果に対して、一般財団法人日本規格協会より贈呈される賞です。自薦ないし他薦による応募のなかから、品質工学の継続的実践と普及活動を通して、社会ないしは企業・団体への貢献が認められる個人ないしは組織体に授与されます。

理事長賞 細井 光夫 氏

3.6. 学生賞 …… 審査表彰部会

教育機関における品質工学の取り組み活動を支援し、教育機関に品質工学の存在感を高めるために、品質工学の取り組みに積極的な学生の研究に授与される賞です。

学生賞 タグチメソッドによるヘルチェ式生体用冷却装置の
外気温変化に対するロバスト性と省エネ性能の向上

…梅田 隆生 (和歌山大学)

学生賞 MT 法による音声および打音の判定技術に関する研究

…舟山 善貴 (日本工業大学)

学生賞 主観的コンディションデータによる投手の怪我検知
—MT 法と多変量管理図の適用

…谷口 勇紀 (慶応義塾大学)

3.7. 田口賞 …… 審査表彰部会

残念ながら 2020 年は田口賞審査に諮る組織体候補を選定するに至らず、田口賞授賞審査は見送りました。

3.8. 功労賞の新設について …… 審査表彰部会

会員功労賞の新設について検討した結果、貢献賞と同じ範疇となることを確認しました。今後は、総務部会に検討を引き継ぎます。

3.9. 貢献賞 …… 総務部会

品質工学会の活動に貢献・協力した会員に授与される賞です。別途に定義された貢献賞得点を累積加算し、その得点が 100 点に達した会員に貢献賞(入賞)を、さらに 100 点ごとに銅賞(200 点)、銀賞(300 点)、金賞(400 点)を授与します。

2020 年度、新たに受賞された方は以下の通り。(得点順、敬称略)

金賞: 細井 光夫、太田 勝之、近藤 芳昭、植 英規 …… (4 名)

銀賞: 武重 伸秀、針幸 達也、坂川 義満、高辻 英之 …… (4 名)

銅賞: 河田 直樹、見原 文雄、伊勢 大成 … (3 名)
入賞: 和田 貴秀、角 有司、水田 匡彦、今津 貴文、林 航洋、飯島 清高、
 満嶋 弘二、西野 精一、小林 宗和、石田 雄二、坂本 新、椿 広計 … (12 名)

(4) 学会誌その他の刊行物の発行

4.1. 学会誌「品質工学」の発行

…… 出版部会

学会誌 Vol.28、No.2、3、4、5、6 (4~12 月)、Vol.29、No.1(2 月)計 6 冊を発行し、論説・解説で 14 報、原著で 11 報を掲載しました。

Vol.28 No.2 (2020 年 4 月号)

…視 点 学校教育に求めるもの -人材育成と品質工学- … 編集委員会
 解 説 「品質工学」誌の価値を高めるために (その 2) … 出版部会編集委員会
 コンピュータ技術者でスタートして … 中島建夫/曾我光英
 開発と研究 MT システムによる OECD35 か国の医療制度パフォーマンスの評価 -単位空間のメンバーが 1 つの場合の評価法- … 中島尚登/矢野耕也/上竹慎一郎/高木一郎
 実施報告 心電図診断のためのデータ準備 -両側 T 法による識別応用- … 竹内和雄
 QE スクエア 栃木で開催した品質工学の普及・啓発の取り組み
 SN 比における二乗値の不偏推定

Vol.28 No.3 (2020 年 6 月号)

…視 点 品質工学はリスクにどう対応するか … 編集委員会
 解 説 パラメータ設計解析支援ツール … 塩沢潤一
 第 12 回品質工学技術戦略研究発表大会パネル討論 品質工学の IT との融合による進化と課題 … 角 有司/沢田龍作/高橋伸一/武重伸秀/手島昌一/浜田和孝/山戸田武史
 事例研究 組立精度作業の能力評価 … 青木規泰/矢野 宏
 大会報告 第 12 回品質工学技術戦略研究発表大会実施報告 … RQES2019A 実行委員会
 実施報告 特別講座実施報告 … 教育・普及委員会
 委員会報告 第 2 回 学校交流会 (準備会) の延期について -延期に至った状況と発表を予定していた学生の研究テーマの紹介- … 河田直樹
 QE スクエア 標準誤差と 1 次式を考慮した RT 法 -RT 法と誤圧法の融合-

Vol.28 No.4 (2020 年 8 月号)

…視 点 研究発表大会の意義 編集委員会
 解 説 東海地方における品質工学の盛り上がり和田口玄一の思い出 … 阿知波正之/高坂慎治/辻 千尋/花田心次/松永孝義/水本 瞳/蜂須賀智弘/中条孝則/細井光夫/生駒亮久
 計測における官能検査、多変量解析、そして MT システム (1) -計量研究所での研究を通して- … 鴨下隆志/矢野耕也
 事例研究 無人化工場を実現するための JIS Z 9090 に基づく計測能力検証と計測信頼性向上活

	動 … 麴谷幸久/中村高士/畠山 鎮
実施報告	工程管理におけるポリマー重合度調整 … 榊原秀紀/森 泰彦/森 義和/中島建夫
活動報告	品質工学フォーラム in 神奈川 2020 実施報告

Vol.28 No.5 (2020 年 10 月号)

…視 点	働き方の新しいスタイル 集合形式の教育の行先 … 編集委員会
論 説	品質工学と MBD の融合を目指して – 機能とモデルの定義 – … 沢田龍作
解 説	2019 年研究論文振り返り … 審査表彰部会/出版部会編集委員会
	計測における官能検査、多変量解析、そして MT システム (2) – 計量研究所での研究を通して – … 鴨下隆志/矢野耕也
事例研究	ボウリングのパーフェクトゲームを目指した品質工学に基づく最適投球方法 … 篠原主勲/榊原大智
実施報告	品質工学適用のウォーター・ロケット演習教育 … 小林健児

Vol.28 No.6 (2020 年 12 月号)

視 点	品質工学会 2020 社員総会挨拶 … 谷本 勲
	会長就任挨拶 … 椿 広計
…視 点	品質工学と品質管理の融合 … 編集委員会
論 説	田口玄一の考え方の構造化 (2) – 「品質工学の歴史化」にみる品質工学のマクロ構造要素の調査 – … 吉澤正孝
解 説	商品開発プロセス研究会 WG-2 の活動報告 … 細川哲夫/田口 伸/沢田龍作/武重伸秀
	教育・研究機関における品質工学の展開 2020 – オンライン授業における品質工学 – … 青木昭夫/伊勢大成/小笠原明彦/久米原宏之/武重伸秀/中原 真/檜原弘之/早川幸弘/福島祥夫/水谷淳之介/山本桂一郎/矢野耕也/河田直樹/五味伸之
開発と研究	鋼材溶接継手を対象とした継手剛性の SN 比と疲労寿命の SN 比の関係に関する基礎検討 … 津村秀一
実施報告	紙吹雪の浮揚安定性を題材とした品質工学教育の手法改善 – 望目特性から動特性へ – … 石黒満津夫/三宅慶明

Vol.29 No.1 (2021 年 2 月号)

…視 点	感覚量と品質工学 … 編集委員会
論 説	田口玄一の考え方の構造化 (2) (つづき) – 「品質工学の歴史化」にみる品質工学のマクロ構造要素の抽出と考察 – … 吉澤正孝
解 説	地方研究会、部会・委員会、専門分野、他学会とのつながりをどのように深めてゆくか … 編集委員会
	＜ルポルタージュ；第 31 回企業交流会＞ 高信頼性システムのシステムズエンジニアリングのための評価 – 品質工学の活用と課題を探る – … 出版部会/編集委員会
開発と研究	プロセス機能展開表を活用した光学ガラスの溶解技術開発 … 佐藤幸太/嘉指伸一
実施報告	T 法 (1) による細穴放電加工の測定法の研究 … 和合 健/清水友治
	固視標を用いた視線制御技術の開発 … 木村 翔/西崎早織/白川佳則

4.2. 学会誌「品質工学」掲載論文レビュー

…… 審査表彰部会

2020 年の学会誌掲載論文に対するレビューを実施しました。結果を学会誌 2021 年 7 月号に掲載予定です。

4.3. 学会誌「品質工学」の編集と投稿数の増加施策

…… 出版部会

2016 年頃より、全体に投稿数が漸減しつつあることを受け、原著論文の投稿数を増やすため発表大会受賞者を始め優れた内容の発表者に投稿を促してきましたが、さらに下記の取り組みを実施しました。

- ・ 投稿しやすい環境の整備として、手引きやテンプレートの作成を、また 2021 年より季刊化しましたため、それに合わせた改定も進めています。
- ・ 「QE スクエア」の掲載を、第 2 号(Vol.28、No.2)から開始しました。また投稿しやすくするため、専用の電子投稿用のアドレスを設定・公開しました。
- ・ 会員の約半数が田口玄一を知らない世代に入りつつあるため、品質工学の再発掘、歴史化等、深める内容についての企画については、Vol.28、No.1 の田口伸氏の原稿から掲載を開始しました。鴨下隆志氏、中島建夫氏、岐阜県の研究会と掲載しましたが、コロナ禍で対面の取材が難しくなり、2020 年の夏以降は中断気味ですが、メール等を利用して、継続をしております。
- ・ 春の大会での優秀発表者を遡って投稿をお願いしました。

以上等の取り組みの結果、2020 年は研究論文の投稿数が若干増加し、投稿総数が微増しました。

(5) 研究発表大会、研究集会、講演会、展覧会、講習会、見学会等の開催

5.1. 品質工学研究発表大会

…… 発表大会実行委員会

◆ 第 28 回品質工学研究発表大会 (RQES2020S)

第 28 回品質工学研究発表大会 (RQES2020S) は新型コロナウイルスの影響により中止しました。

◆ 第 29 回品質工学研究発表大会 (RQES2021S)

2020 年 10 月に第 29 回品質工学研究発表大会 (RQES2021S) の実行委員会を発足させました。RQES2021S は新型コロナウイルスの影響下でも開催できるよう、これまでと異なる新しい開催形態とすることを実行委員会で検討しました。

・第 29 回品質工学研究発表大会 (RQES2021S) は、新型コロナウイルスの影響下でも開催できるよう、2021 年 6 月 24 日、25 日に、完全オンラインで開催することを決定しました。

・完全オンライン開催のため、タワーホール船堀 (江戸川区) はキャンセルし、ネットワーク設備が整っている統計数理研究所を新たな運営会場としました。

・RQES2020S で一般申し込みがあった 70 件について、申し込み依頼を行った結果、RQES2021S で半数以上の 48 件の申し込みを得ることができました。

・RQES2021S では地方研究会を含めた 77 件の発表を実施する予定で、RQES2020S と同程度の発表件数とすることができました。

・RQES2020S で実施予定だった実行委員特別企画である「商品開発プロセス研究会活動報告」も RQES2021S で実施します。

5.2. ICRQE2021

…… ICRQE2021 開催検討委員会

2020 年 9 月に ICRQE2021 開催検討委員会を発足 (メンバー: 浜田、田口、細川、舟山、高松、塩沢、熊坂、宮城、救仁郷)、1 回/月リモートにて委員会を開催しました。

大会方式：リモート、日程：9 月 10 日～17 日（ライブは 17 日）と決定し、ICRQE のホームページを開設しました。

5.3. 品質工学技術戦略発表大会（RQES2020A）

…… 戦略大会実行委員会

第 13 回品質工学技術戦略研究発表大会（RQES2020A）を予定どおり 2020 年 11 月 27 日開催しました。サブテーマ「IT と結合で進化する品質工学」として、DFSS との連携した欧米活動の実態と事例、技術開発プロセスの実践例、マツダを中心とした広島地区における協力会社含めた機能開発の取り組み、など基調講演 1 件、招待講演 1 件、研究発表 4 件について議論しました。

今大会ではコロナ禍により従来使用していた大会会場での開催をやめ、米国含め 4 拠点での完全リモート開催としました。新たな試みとして、①予稿集はカラー-pdf 化と印刷レス、②予稿の事前配布、③チャットによる議論多チャンネル化、④発表録画配信による開催時間の厳格化を実施しました。大会参加者は 100 名（内正会員 72 名）と直近 2 年の参加者には及びませんでした。

5.4. 企業交流会

…… 事業部会

第 31 回企業交流会は(国研) 宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センターをホストとして、当初予定の 2020 年 3 月 6 日（金）を新型コロナウイルスのリスク回避のため延期し、9 月 4 日（金）にオンラインで開催いたしました。参加者 83 名を得て、下記内容で実施いたしました。

総合テーマは「高信頼性システムのシステムエンジニアリングのための評価」としました。これからの時代のシステムは高機能/高信頼性がより要求されてくる高信頼性時代になりますが、それに応えるシステムエンジニアリングの在り方を品質工学の活用も含めて議論しました。プログラムは以下になります。

講演「ロケットエンジンの信頼性向上」、JAXA 沖田耕一氏、

壇上発表(1)スカイアクティブ成功への道、マツダ(株)武重伸秀氏、

(2) 単位空間を動的に生成する事による機械設備・プラント異常診断の精度向上、
(株)IHI 茂木悠佑氏、

(3) JAXA のロバスト設計ハンドブックの概要と今後の適用について、JAXA 角有司氏、

(4) QFD とロバスト設計を組み合わせたロケットターボポンプ用タービンの最適化、JAXA
川崎聡氏、

パネルディスカッション：「高信頼性システムのシステムエンジニアリングのための評価」 司会；JAXA
角有司氏、パネリスト；講演者、壇上発表者

企業交流会としては初めてのオンライン開催でしたが、当日は活発な議論が交わされて、宇宙航空産業の開発プロセスにおけるフロントローディングおよび技術開発時のロバスト性評価の重要性が再認識され、非常に有意義な交流会になりました。

5.5. 経営交流会

…… 事業部会

経営者が品質工学の本質的な考え方を理解し実践への強力なリーダーシップを取っていただくことが企業での普及につながるということを狙い、新たに経営交流会を立ち上げるために、古くから賛助会員になっている企業 3 社（古河電気工業(株)、コニカミルタ(株)、(株)小松製作所）の役員のヒアリングを行い、経営側のニーズを調査いたしました。またその 3 社にマツダ(株)を加えて日本の産業界を代表する企業 4 社と経営委員会委員とで構成する経営交流会の準備委員会を 2020 年 4 月に設置いたしました。その準備委員会で経営層向けの事業を具体的に企画し、経営層同士の交流会と位置づけで「次世代経営研究会」を 2020 年 11 月より発足いたしました。3 か月毎に基調講演＋パネル等討論会を基本構成とした定例会を研究会の柱として立ち上げ、第 1 回、第 2 回をオンラインで開催いたしました。

*** 第 1 回定例会 11 月 15 日 (火)**

基調講演：藤本隆宏氏（東京大学大学院経済学研究科教授 ものづくり経営研究センター・センター長）、演 題：「デジタル化と日本のものづくり戦略」

パネル討論；藤本先生から提示された経営に関する情勢分析及び課題に対して、さらに深掘りして共有化していくため質問をパネリストから藤本先生に投げかけながら議論を行う。さらにその対策についての視点・アイデアを藤本先生及びパネリスト全員で議論しました。

* 司 会： 谷本勲氏（品質工学会前会長 元・アルプス電気(株)専務取締役）

* パネリスト：折戸文夫氏（（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 品質工学会・監事）、小平哲氏（アルプスアルパイン(株) 品質担当（役員））、玉木淳氏（三菱ケミカル(株) 生産技術部 部長付）、武重伸秀氏（マツダ(株) 車両開発本部首席エンジニア 品質工学会・副会長）。

*** 第 2 回定例会 2021 年 2 月 15 日 (月)**

基調講演；マツダ(株) 武重伸秀氏（車両開発本部首席エンジニア）、演題「マツダの開発部門における業務変革活動－品質管理および品質工学の考え方の応用－」、要旨「弊社はこれまで幾度となく経営危機に陥り、その度に社内外の様々な方々に支えられ、何とか立て直してきた。そして 100 年に一度という大きな変革期を迎えている今、次の 100 年を生き抜くため、仕事のやり方を大きく変えようとしている。一方、各種管理技術は社会問題と連動して進化してきたため、業務変革を実行する上で役に立つ情報がつまっている。そこで本報では、まずこれまでの管理技術の変遷を業界動向と対比して整理する。その上で弊社の開発部門が抱える課題を達成する取り組みについて紹介する」

パネル討論；武重様から提示された課題と取り組みに対して、さらに深掘りして共有化していくため質問をパネリストおよび一般参加者から武重様に投げかけながら議論を行う。さらにその対策についての視点・アイデアを武重様及びパネリスト全員で議論しました。

* 司 会：椿広計氏（品質工学会・会長、統計数理研究所・所長）

* パネリスト：折戸文夫氏（（国研）農業・食品産業技術総合研究機構 品質工学会・監事）、須江雅彦氏（滋賀大学 理事・副学長 品質工学会・理事）、福原證氏（(有)アイテムツーワン 元代表取締役 TQM シニアコンサルタント）。

5.6. 学校交流会

..... 学校教育委員会

- 2020 年 8 月 21 日(金)にリモート (Zoom)にて、学校交流会（準備会）を開催した。
- 2020 年 11 月 4 日に学校教育委員会をリモートにて開催し、開催方法についての意見交換を行った。
- 2021 年 3 月 5 日に遠リモート(Zoom)にて、学校交流会を開催した。内容は、
 - (1) 開催挨拶 九州工業大学 榎原弘之
 - (2) 学生による研究発表：富山高専、福井高専、埼玉工業大学、九州工業大学 計 7 件
 - (3) 終わりの挨拶 富山高等専門 水谷淳之介
- 参加者総数は、21 名（内訳：教員 9 名、学生 8 名、学会役員 4 名）。

(6) 品質工学情報の収集、提供

6.1. 論文電子公開(J-Stage)

..... 総務部会

品質工学の普及宣伝また研究や応用のための先行事例参照の利便性を図るため、学会誌掲載

後 1 年を経過した研究論文、論説、解説等の J-STAGE を利用し Vol.26、No.6 掲載の論文まで電子公開しています。しかしながら、今年度は追加公開を実施できず、その原因について対策し、次年度中に追いつくようにします。

6.2. 事例データベースの作成

…… 技術向上委員会

過去の研究論文（学会誌、大会予稿集）について、体系化した品質工学データベースを関西品質工学研究会有志の協力を得て作成中です。1993 年～1998 年、2000 年、2001 年、2017 年～2019 年は完了しました。

6.3. 品質工学用語集作成

…… 技術向上委員会

当初既存の学会用語規格の改定を行う予定でしたが、規格改訂ではなく、品質工学関連用語まで枠を拡げ、論文作成や論文を読む際のサポートを狙いとした用語集として、作成しました。

(7) 内外の関係団体との連絡および提携

7.1. 一般財団法人 日本規格協会

…… 審査表彰部会

「日本規格協会理事長賞」のスポンサーシップいただき、両者での連携について検討を進めています。

7.2. 一般社団法人 日本品質管理学会

…… 事業部会

「商品開発プロセス研究会」

一般社団法人日本品質管理学会と共同の研究会「商品開発プロセス研究会」は両学会の理事会の承認を経て 2018 年 11 月に正式に発足し、活動を継続しています。

→ 参照: 1.4. 品質工学新領域開拓

7.3. 国立研究開発法人 産業技術総合研究所

…… 事業部会

産業総合研究所主導のミニマルハブ開発への支援活動を予定しておりましたが、コロナの影響もあり活動ができませんでした。

7.4. 農林水産省

…… 技術向上委員会

2020 年度は、コロナ禍の影響もあり、具体的な活動は実施できませんでした。

7.5. JAXA/宇宙航空研究開発機構

…… 事業部会

JAXA と品質工学会の共同研究として、2020 年度はロバスト設計の標準書の作成を昨年より継続しました。活動の結果、標準書の案を作成し、JAXA での審議の結果、標準書の制定となりました。今後、この標準を利用した航空宇宙領域でのロバスト設計の活用が進むことが期待されます。

また、第 31 回企業交流会は JAXA 筑波宇宙センターをホストとして開催しました。

7.6. 消費者庁

…… 総務部会

消費者安全調査委員会が実施中の「幼児同乗中の電動アシスト自転車の事故調査」に関して、同庁消費者安全課よりの当学会に対する依頼に応え、自転車走行安定性の評価実験に参画し、MT 法を用いて安全性を評価しました。その結果は、2020 年 12 月 25 日付で消費者庁より「消費

者安全法第 23 条第 1 項の規定に基づく事故等原因調査報告書「幼児同乗中の電動アシスト自転車の事故-」として公表されました。

(8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

…… 総務部会

8.1. 会議体運営

定時社員総会：発表大会の中止により、例年より 1 カ月遅れで単独で、かつ初のリモート開催となったが、社員総数 126 名中 108 名(リモート 66、委任状 42)の出席のもと、2019 年度事業報告/決算報告、名誉会員の推薦、さらに 2020 年度の事計画と予算案について承認いただいた。

理事会：2020 年 6、9、12 月および 2021 年 3 月の計 4 回定例通りに開催し、諸賞の授与承認、規程の改定、2021 年よりの学会誌季刊化、新型コロナウイルス感染に対する方針などを決議しました。

部会長会議：毎月 1 回計 12 回定例通りに開催し、情報共有また議論を交え学会運営をリードしてきました。

8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)

2020 年度当初は、発表大会中止による減収を甘受し、大幅な赤字予算でスタートしましたが、給付金(国:300 万円、東京都 6 万円)と、寄付金(矢野宏氏:50 万円、故齋藤元会長夫人:30 万円)など、さらに各部会/委員会の皆さんの支出抑制により、結果として黒字で着地できました。みなさんの御芳志とご協力に、そして国と都に感謝の意を表します。

8.3. 代議員選挙運営および理事改選

代議員および理事監事の任期(2 年)満了に伴い、代議員選挙を実施し計 126 名の方々に当選証書を発行して第 3 期代議員に就任いただきました。

また、推薦委員会を招集し理事監事候補を選定し、2020 年度定時社員総会において代議員からの承認を得て、2020 年度執行体制を確定し、その最初の理事会において統計数理研究所長の椿広計先生に代表理事・会長に就任いただきました。

8.4. 新型コロナウイルス感染対応

2020/3/12 理事会で制定した「品質工学会の新型コロナウイルス感染に対する方針」を内外に周知、それに基づいて、学会の会議体は原則リモート開催とし、さらに事務局員の在宅リモートワークのための器材と勤務シフトを整えました。また、状況の変化に応じ、2021/3/9 の理事会でコロナ対応方針を改定しました。

8.5. 規程整備

総務主管では「定款運用細則」を実態に即して改定しました。

以上

審議

第 2 号議案 2020 年度決算報告

※

1. 決算概要
2. 財務諸表
 - 2.1. 総合計
 - 2.1.1. 一般会計
 - 2.1.2. 学生賞特別会計
 - 2.1.3. 地震予知 MT システム研究特別会計
 - 2.1.4. 田口賞特別会計
3. 監査報告書

1. 概要

品質工学会の会計は、一般会計と3つの特別会計で構成されています。

一般会計は活動全般に関わるものですが、特別会計は田口賞、学生賞、地震予知 MT システム研究に関わる事業に限定したもので、それぞれを目的とした基金によるため、一般会計とは独立した会計として運用しています。

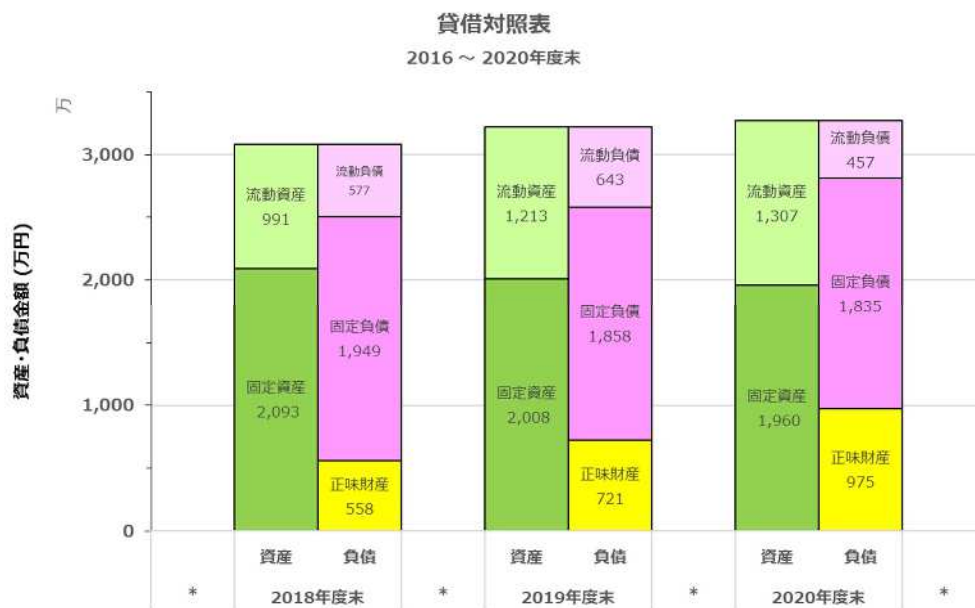
以下、決算報告は、特別会計3会計の合計収支総額が、全4会計合計の0.5%に満たないことから、4会計をまとめた「**総合計**」の**財務諸表**(貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書、収支計算書)からのピックアップを報告します。

個々の会計の詳細についてはそれぞれの財務諸表を御参照ください。

なお、会計方式は、将来、公益法人への移行を念頭に、公益法人方式を採用しています。

財務諸表に関する概要説明

1) 貸借対照表



- ① 資産合計は前年の同時期に比べ微増しました。
- ② 約 250 万円増加しました。これは、事業活動収支の黒字によるものですが、その黒字は給付金と寄付金に助けられたによるものです。
- ③ それに応じて、正味財産も増加しましたが、コロナウィルス関連のため、次期には大幅な収入減が予想されることから、各種引当金への積み増しは見送りました。

2) 収支計算書

- ①【事業活動収支】：大会の中止、その他イベントのリモート開催への移行と大きな変化がありましたが、結果として、約 320 万円の黒字となりました。当初は大幅な赤字を見込んでおりましたが、いくつかの事業取り止めや活動費未費消および管理費削減などの支出抑制によりかなり抑えることができました。但し、黒字は、コロナ関連の給付金(計 306 万円)と寄付金(計 95 万円)に助けられた結果でありました。



- ②【投資活動収支】：コロナ禍により、引き続き見通しが不明なため、貢献賞および学生賞の贈賞に関わる経費分(計 60 万円)の取り崩しに留めました。
- ④【財務活動収支】：納税関連で、法人税と印紙等の租税公課です。今年度も、収益事業分の税引き前利益が僅少で所得税の課税対象に至らず、法人住民税均等割の 7 万円のみとなりました。
- ⑤【当期収支差額】は【事業活動】、【投資活動】、【財務活動】の収支差額と【予備費】の支出(=0 円)を合計したもので、当期は約 280 万円の黒字で着地できました。
- ⑥【繰越金】は前期からの約 570 万円に対し、前項の【当期収支差額】をすべて合わせ、約 850 万円を【次期繰越金】としました。

※ 事業活動収支の科目別内容に関する補足説明

《事業活動収入》

- 2020 年度は、発表大会中止によりその参加費収入は計上しておりませんでした。その他イベントは全般的に参加費収入が予算未達でありました。併せて、引き続き正会員の減少による会費減収が収入減の主要因でありました。そのようななかであって、前述の国と都からのコロナ関連給付金(計 306 万円)と寄付金(計 95 万円)により、対予算 160 万円増収という結果になりました。

《事業活動支出》

- 【事業活動支出】：以下の【事業費支出】と【管理費支出】の合計で、対予算約 670 万円アンダーで着地できました。
- 【事業費支出】：対予算約 400 万円アンダーという結果になりました。
特筆すべきは、各種イベントの経費減少で、これらはリモート開催による会場費・資料代の大幅削減によるものです。また、未実施の贈賞、各部会/委員会の活動経費未費消などのご協力によるものでした。
- 【管理費支出】：対予算約 270 万円アンダーに抑えることができました。
労務費の低減に加え、大会などイベントの中止とリモート化による印刷・通信経費の低減、通常事務については不要不急の費用カットとコストダウンで抑えました。

《事業活動収支差額》

- 上記の通り、対予算で《事業活動収入》が約 160 万円の増収、《事業活動支出》が約 670 万円アンダーで着地した結果、予算に対し約 320 万円の黒字となりました。

2. 特別会計

2.1 学生賞特別会計

- 2020 年度は審査 1 件を実施しました。
- 審査費用その他の総支出約 7 万円に対し、積立金より約 10 万円を取り崩し、その差額と前期繰越しとを合わせ約 3 万円を次期繰越金とし、2020 年度末で約 73 万円の総資産となりました。

2.2 地震予知 MT システム研究特別会計

- 2020 年度は、事務経費のみ 550 円の支出がありました。
- 年度末で引当金を含め総資産約 33 万円となりました。

2.3 田口賞特別会計

- 2020 年度は審査を行わなかったため、事務経費のみ 520 円の支出がありました。
- 結果として、当期総収入 48 円、総支出 516 円、差額がマイナス 468 円となり、年度末で引当金を含め総資産約 480 万円となりました。

以下、資料

(1) 財務諸表 …… 貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書

1.1. 総合計

1.1.1. 一般会計

1.1.2. 田口賞特別会計

1.1.3. 学生賞特別会計

1.1.4. 地震予知 MT システム研究特別会計

(2) 監査報告書

決算書

第4期

自 平成31年(2020) 4月 1日

至 令和 2年(2021) 3月 31日

総合計

- 1) 一般会計
- 2) 学生賞特別会計
- 3) 地震予知MTシステム研究特別会計
- 4) 田口賞特別会計

一般社団法人 品質工学会

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現金・預金	11,758,731	11,047,757	710,974
貯蔵品	557,956	834,220	△276,264
前払金	755,302	250,000	505,302
流動資産合計	13,071,989	12,131,977	940,012
2 固 定 資 産			
(1) そ の 他 固 定 資 産			
貢献賞基金積立預金みずほ	1,192,499	1,320,512	△128,013
学会活動積立引当預金（U	5,016,470	5,016,470	
周年記念積立引当預金（U	5,699,643	5,700,091	△448
退職給与引当預金（U F J	1,099,120	1,099,120	
田口賞積立引当預金	4,350,000	4,350,000	
学生賞積立引当預金	694,317	793,067	△98,750
地震予知積立引当預金	302,946	302,946	
差入敷金	1,000,000	1,000,000	
長期前払費用	250,000	500,000	△250,000
その他固定資産合計	19,604,995	20,082,206	△477,211
固定資産合計	19,604,995	20,082,206	△477,211
資産合計	32,676,984	32,214,183	462,801
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未払金	455,609	334,620	120,989
前受金	4,011,000	6,006,000	△1,995,000
預り金	31,459	15,825	15,634
仮受金	400		400
未払法人税等	70,000	70,000	
流動負債合計	4,568,468	6,426,445	△1,857,977
2 固 定 負 債			
貢献賞基金引当金	1,192,499	1,320,512	△128,013
学会活動積立引当金	5,016,470	5,016,470	
周年記念引当金	5,699,643	5,700,091	△448
退職給与引当金	1,099,120	1,099,120	
田口賞基金引当金	4,350,000	4,350,000	
学生賞基金引当金	694,317	793,067	△98,750
地震予知基金引当金	302,946	302,946	
固定負債合計	18,354,995	18,582,206	△227,211
負債合計	22,923,463	25,008,651	△2,085,188
III 正 味 財 産 の 部			
1 一 般 正 味 財 産	9,753,521	7,205,532	2,547,989

決算書

第4期

自 平成 31 年(2020) 4 月 1 日

至 令和 2 年(2021) 3 月 31 日

総合計

一般社団法人 品質工学会

(単位：円)			
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
正 味 財 産 合 計	9,753,521	7,205,532	2,547,989
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	32,676,984	32,214,183	462,801

正 味 財 産 増 減 計 算 書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一 般 正 味 財 産 増 減 の 部			
1 経 常 増 減 の 部			
(1) 経 常 収 益			
① 入 会 金	88,000	151,000	△63,000
入 会 金	88,000	151,000	△63,000
② 年 度 会 費	15,232,000	16,335,500	△1,103,500
正 会 員 会 費	10,645,000	11,885,000	△1,240,000
学 生 会 員 会 費	12,000	25,500	△13,500
賛 助 会 員 会 費	4,575,000	4,425,000	150,000
③ 事 業 収 入	3,028,433	8,447,461	△5,419,028
学 会 誌 出 版			
出 版 物 収 入	196,133	250,761	△54,628
掲 載 広 告 料	786,000	1,134,000	△348,000
学 会 誌 出 版 計	982,133	1,384,761	△402,628
研 究 発 表 大 会			
研 究 ・ 参 加 費		4,896,000	△4,896,000
研 究 ・ 懇 親 会 費		426,000	△426,000
研 究 ・ 予 稿 購 読	35,800	301,200	△265,400
研 究 発 表 大 会 計	35,800	5,623,200	△5,587,400
技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会			
技 術 ・ 参 加 費	840,000	1,090,000	△250,000
技 術 ・ 懇 親 会 費		182,000	△182,000
技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会 計	840,000	1,272,000	△432,000
企 業 交 流 会			
企 交 ・ 参 加 費	788,000		788,000
企 業 交 流 会 計	788,000		788,000
経 営 講 演 会			
経 営 講 演 参 加 費	170,000		170,000
経 営 講 演 会 計	170,000		170,000
特 別 講 座 開 催	190,000	130,000	60,000
資 格 制 度 申 請 登 録 料	22,500	37,500	△15,000
④ 受 取 補 助 金 等	350,800	176,200	174,600
精 密 測 定 財 団 審 査 助 成 金	350,800	176,200	174,600
⑤ 寄 付 金	950,000	1,180,000	△230,000
貢 献 賞 寄 付 金	140,000	20,000	120,000
一 般 寄 付 金	810,000	1,160,000	△350,000
⑥ 雑 収 入	3,670,146	3,346,817	323,329
受 取 利 息	325	294	31
事 務 所 立 退 き 料		2,400,000	△2,400,000
雑 収 入	3,102,496	15,600	3,086,896

(単位：円)			
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
貢献賞基金引当金取崩額	468,025	129,503	338,522
退職給与引当預金取崩額		800,880	△800,880
周年記念積立引当金取崩額	550	540	10
学生賞積立引当金取崩額	98,750		98,750
経 常 収 益 計	23,319,379	29,636,978	△6,317,599
(2) 経 常 費 用			
1. 事 業 費			
事業経費	7,193,338	11,440,609	△4,247,271
学会誌出版			
学会誌作成費	5,413,852	5,136,101	277,751
学会誌外注委託	341,559	353,261	△11,702
学会誌発送費	934,633	964,119	△29,486
出版部会費		1,280	△1,280
学会誌出版計	6,690,044	6,454,761	235,283
研究発表大会			
研究・会場費		894,019	△894,019
研究・論文印刷		1,018,423	△1,018,423
研究・大会経費	23,100	811,405	△788,305
研究・懇親会費		632,678	△632,678
研究・委員会費		4,888	△4,888
研究・2020準備	96,800	211,440	△114,640
研究発表大会計	119,900	3,572,853	△3,452,953
技術戦略研究発表大会			
技術・会場費		280,390	△280,390
技術・資料印刷	38,566	341,282	△302,716
技術・大会経費	16,254	160,155	△143,901
技術・懇親会費		232,720	△232,720
技術・委員会費	9,846	54,860	△45,014
技術戦略研究発表大会計	64,666	1,069,407	△1,004,741
企業交流会			
企 交 ・ 経 費	99,872		99,872
企業交流会計	99,872		99,872
経営講演会			
経 講 ・ 経 費	63,651		63,651
経営講演会計	63,651		63,651
教育特別講座			
教 育 ・ 講 師 費	43,312	99,729	△56,417
教育・教材保守	42,450	41,140	1,310
教育特別講座計	85,762	140,869	△55,107

(単位：円)			
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
新規開発プロジェクト			
新規プロジェクト費		90,613	△90,613
新規開発プロジェクト計		90,613	△90,613
学 生 賞 審 査 経 費	68,750	39,380	29,370
研究会連携委員会費	693		693
技術向上委員会費		47,336	△47,336
資格認定経費		25,390	△25,390
事業費合計	7,193,338	11,440,609	△4,247,271
2. 管 理 費			
① 管 理 費			
広報			
宣 伝 活 動 費	16,500	391,480	△374,980
公 式 W E B 経 費	45,436	97,356	△51,920
広 報 計	61,936	488,836	△426,900
審 査 計			
審 査 会 費	44,000	120,555	△76,555
審 査 表 彰 部 会 費	58,488		58,488
審 査 計	102,488	120,555	△18,067
記 念 品			
貢 献 賞 記 念 品 費	268,025	129,503	138,522
会 長 委 員 長 賞 費		42,498	△42,498
記 念 品 計	268,025	172,001	96,024
総 務			
労 務 費	4,725,803	5,557,788	△831,985
事 務 費	747,511	1,032,055	△284,544
印 刷 ・ 通 信	1,039,953	1,293,111	△253,158
総 務 部 会 費	331,950	1,283,293	△951,343
会 計 士 ・ 税 理 士	1,105,500	1,091,500	14,000
事 務 所 賃 借 料	3,000,000	3,018,400	△18,400
転 居 費		1,193,024	△1,193,024
総 務 計	10,950,717	14,469,171	△3,518,454
システムメンテナンス			
W E B メ ン テ 費	860,640	924,080	△63,440
I T 設 備 費	155,244	32,282	122,962
システムメンテナンス計	1,015,884	956,362	59,522
管 理 費 計	12,399,050	16,206,925	△3,807,875
管 理 費 合 計	12,399,050	16,206,925	△3,807,875
経 常 費 用 計	19,592,388	27,647,534	△8,055,146
評価損益等調整前当期経常増減額	3,726,991	1,989,444	1,737,547
② 特 定 引 当 金 繰 入	340,114	20,111	320,003

(9999) 総合計

一般社団法人品質工学会
(9999) 総合計

収 支 計 算 書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科	目	当 年 度	前 年 度	増 減
	貢 献 賞 引 当 金 繰 入	340,012	20,012	320,000
	周 年 記 念 引 当 繰 入	102	99	3
	特 定 資 産 評 価 損 益 等	△340,114	△20,111	△320,003
	評 価 損 益 等 計	△340,114	△20,111	△320,003
	当 期 経 常 増 減 額	3,386,877	1,969,333	1,417,544
2	経 常 外 増 減 の 部			
(1)	経 常 外 収 益			
	経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2)	経 常 外 費 用			
①	固 定 資 産 売 却 損	768,843	277,286	491,557
	棚 卸 資 産 廃 棄 損	518,843	277,286	241,557
	長 期 前 払 費 用 償 却	250,000		250,000
	経 常 外 費 用 計	768,843	277,286	491,557
	当 期 経 常 外 増 減 額	△768,843	△277,286	△491,557
	税 引 前 当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	2,618,034	1,692,047	925,987
	租 税 公 課	45	40	5
	法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	70,000	70,000	0
	当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	2,547,989	1,622,007	925,982
	一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	7,205,532	5,583,525	1,622,007
	一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	9,753,521	7,205,532	2,547,989
II	指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
	当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
	指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
	指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III	正 味 財 産 期 末 残 高	9,753,521	7,205,532	2,547,989

科	目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I	事 業 活 動 収 支 の 部				
1	事 業 活 動 収 入				
①	入 会 金 収 入	123,000	88,000	35,000	
	入 会 金 収 入	123,000	88,000	35,000	
②	年 度 会 費 収 入	16,072,000	15,232,000	840,000	
	正 会 員 会 費 収 入	11,692,000	10,645,000	1,047,000	
	学 生 会 員 会 費 収 入	30,000	12,000	18,000	
	賛 助 会 員 会 費 収 入	4,350,000	4,575,000	△225,000	
③	事 業 収 入	4,415,000	3,028,433	1,386,567	
	学 会 誌 出 版 収 入				
	出 版 物 収 入	180,000	203,133	△23,133	
	掲 載 広 告 料	1,000,000	786,000	214,000	
	学 会 誌 出 版 収 入 計	1,180,000	989,133	190,867	
	研 究 発 表 大 会 収 入				
	研 究 ・ 予 稿 購 読		28,800	△28,800	
	研 究 発 表 大 会 収 入 計		28,800	△28,800	
	技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会 収 入				
	技 術 ・ 参 加 費	1,000,000	840,000	160,000	
	技 術 ・ 懇 親 会 費	210,000		210,000	
	技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会 収 入 計	1,210,000	840,000	370,000	
	企 業 交 流 会 収 入				
	企 交 ・ 参 加 費	790,000	788,000	2,000	
	企 交 ・ 懇 親 会 費	200,000		200,000	
	企 業 交 流 会 収 入 計	990,000	788,000	202,000	
	経 営 ・ 講 演 会 収 入				
	経 営 講 演 参 加 費	600,000	170,000	430,000	
	経 営 ・ 講 演 会 収 入 計	600,000	170,000	430,000	
	特 別 講 座 参 加 費 収 入	300,000	190,000	110,000	
	資 格 制 度 申 請 登 録 料 収 入	135,000	22,500	112,500	
④	受 取 補 助 金 等 収 入	170,000	350,800	△180,800	
	精 密 測 定 財 団 審 査 助 成 金 収	170,000	350,800	△180,800	
⑤	寄 付 金 収 入	180,000	950,000	△770,000	
	一 般 寄 付 金	160,000	810,000	△650,000	
	貢 献 賞 寄 付 金	20,000	140,000	△120,000	
⑥	雑 収 入	150,300	3,102,821	△2,952,521	
	受 取 利 息 収 入	300	325	△25	
	雑 収 入	150,000	3,102,496	△2,952,496	
	事 業 活 動 収 入 計	21,110,300	22,752,054	△1,641,754	

(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	11,172,200	7,193,338	3,978,862	
学会誌出版支出				
学会誌作成費	6,000,000	5,413,852	586,148	
学会誌外注委託	300,000	341,559	△41,559	
学会誌送費	1,000,000	934,633	65,367	
出版部会費	100,000		100,000	
学会誌出版支出計	7,400,000	6,690,044	709,956	
研究発表大会支出				
研究・大会経費		23,100	△23,100	
研究・委員会費	100,000		100,000	
研究・2020準備	100,000	96,800	3,200	
研究発表大会支出計	200,000	119,900	80,100	
技術戦略研究発表大会支出				
技術・会場費	280,000		280,000	
技術・資料印刷	360,000	38,566	321,434	
技術・大会経費	160,000	16,254	143,746	
技術・懇親会費	230,000		230,000	
技術・委員会費	100,000	9,846	90,154	
技術戦略研究発表大会支出計	1,130,000	64,666	1,065,334	
企業交流会支出				
企交・経費	237,200	99,872	137,328	
企交・懇親会費	200,000		200,000	
企業交流会支出計	437,200	99,872	337,328	
経営講演会支出				
経講・会場費	180,000		180,000	
経講・懇親会費	248,000		248,000	
経講・経費	125,000	63,651	61,349	
経営講演会支出計	553,000	63,651	489,349	
教育特別講座開催支出				
教育・教材保守	80,000	43,312	36,688	
教育・講師費	122,000	42,450	79,550	
教育特別講座開催支出計	202,000	85,762	116,238	
新規開発プロジェクト支出				
新規プロジェクト費	80,000		80,000	
事業部会費	100,000		100,000	
新規開発プロジェクト支出計	180,000		180,000	
田口賞審査支出	400,000		400,000	
学生賞審査支出	30,000	68,750	△38,750	

(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
資格認定経費支出	110,000		110,000	
Vision30プロジェクト支出	50,000		50,000	
企業普及委員会支出	100,000		100,000	
研究会連携委員会支出	100,000	693	99,307	
学校教育委員会支出	100,000		100,000	
地震予知委員会支出	30,000		30,000	
農水省プロジェクト支出	50,000		50,000	
技術向上委員会支出	100,000		100,000	
事業費支出計	11,172,200	7,193,338	3,978,862	
② 管理費支出				
広報支出				
宣伝活動費	370,000	16,500	353,500	
公式WEB経費	95,000	45,436	49,564	
広報部会費	100,000		100,000	
広報支出計	565,000	61,936	503,064	
審査支出				
審査会費	120,000	11,000	109,000	
審査表彰部会費	100,000	91,488	8,512	
審査支出計	220,000	102,488	117,512	
記念品支出				
貢献賞記念品費	173,630	268,025	△94,395	
記念品支出計	173,630	268,025	△94,395	
総務支出				
労務費	5,200,000	4,725,803	474,197	
事務費	1,000,000	747,511	252,489	
印刷・通信	1,200,000	1,039,953	160,047	
総務部会費	1,500,000	331,950	1,168,050	
会計・税理士	1,080,000	1,105,500	△25,500	
事務所賃借料	3,000,000	3,000,000		
総務支出計	12,980,000	10,950,717	2,029,283	
システムメンテナンス支出				
会員DBメンテ	170,000		170,000	
WEBメンテ費	700,000	860,640	△160,640	
IT設備費	300,000	155,244	144,756	
J - S t e g e 経費	25,000		25,000	
システムメンテナンス支出計	1,195,000	1,015,884	179,116	
管理費支出計	15,133,630	12,399,050	2,734,580	
事業活動支出計	26,305,830	19,592,388	6,713,442	
事業活動収支差額	△5,195,530	3,159,666	△8,355,196	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	1,633,630	600,325	1,033,305	
貢献賞積立引当取崩収入	173,630	501,025	△327,395	
学会活動積立引当取崩収入	1,000,000		1,000,000	
周年記念積立引当取崩収入		550	△550	
田口賞引当預金取崩収入	400,000		400,000	
学生賞引当預金取崩収入	30,000	98,750	△68,750	
地震予知引当預金取崩収入	30,000		30,000	
投資活動収入計	1,633,630	600,325	1,033,305	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出	0	373,114	△373,114	
貢献賞積立金積立支出		373,012	△373,012	
周年記念積立金積立支出		102	△102	
② 固定資産取得支出	0	518,843	△518,843	
棚卸廃棄支出		518,843	△518,843	
投資活動支出計	0	891,957	△891,957	
投資活動収支差額	1,633,630	△291,632	1,925,262	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
① その他財務活動支出	75,000	70,045	4,955	
租 税 公 課	5,000	45	4,955	
法 人 税 等	70,000	70,000		
財務活動支出計	75,000	70,045	4,955	
財務活動収支差額	△75,000	△70,045	△4,955	
Ⅳ 予 備 費 支 出	300,000	—	300,000	
	0			
当期収支差額	△3,936,900	2,797,989	△6,734,889	
前期繰越収支差額	5,705,532	5,705,532	0	
次期繰越収支差額	1,768,632	8,503,521	△6,734,889	

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 ・ 預 金	11,222,512	10,495,090	727,422
貯 蔵 品	557,956	834,220	△276,264
前 払 金	755,302	250,000	505,302
流 動 資 産 合 計	12,535,770	11,579,310	956,460
2 固 定 資 産			
(1) そ の 他 固 定 資 産			
貢 献 賞 基 金 積 立 預 金 み ず ほ	1,192,499	1,320,512	△128,013
学 会 活 動 積 立 引 当 預 金 (U	5,016,470	5,016,470	
周 年 記 念 積 立 引 当 預 金 (U	5,699,643	5,700,091	△448
退 職 給 与 引 当 預 金 (U F J	1,099,120	1,099,120	
差 入 敷 金	1,000,000	1,000,000	
長 期 前 払 費 用	250,000	500,000	△250,000
そ の 他 固 定 資 産 合 計	14,257,732	14,636,193	△378,461
固 定 資 産 合 計	14,257,732	14,636,193	△378,461
資 産 合 計	26,793,502	26,215,503	577,999
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未 払 金	455,609	295,240	160,369
前 受 り 金	4,011,000	6,006,000	△1,995,000
預 り 金	31,459	15,825	15,634
仮 受 金	400		400
未 払 法 人 税 等	70,000	70,000	
流 動 負 債 合 計	4,568,468	6,387,065	△1,818,597
2 固 定 負 債			
貢 献 賞 基 金 引 当 金	1,192,499	1,320,512	△128,013
学 会 活 動 積 立 引 当 金	5,016,470	5,016,470	
周 年 記 念 引 当 金	5,699,643	5,700,091	△448
退 職 給 与 引 当 金	1,099,120	1,099,120	
固 定 負 債 合 計	13,007,732	13,136,193	△128,461
負 債 合 計	17,576,200	19,523,258	△1,947,058
III 正 味 財 産 の 部			
1 一 般 正 味 財 産	9,211,692	6,692,245	2,519,447
正 味 財 産 合 計	9,211,692	6,692,245	2,519,447
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	26,787,892	26,215,503	572,389

決算書

第4期

自 平成 31年(2020) 4月 1日

至 令和 2年(2021) 3月 31日

1) 一般会計

一般社団法人 品質工学会

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一 般 正 味 財 産 増 減 の 部			
1 経 常 増 減 の 部			
(1) 経 常 収 入			
① 入 会 金	88,000	151,000	△63,000
入 会 金	88,000	151,000	△63,000
② 年 度 会 費	15,232,000	16,335,500	△1,103,500
正 会 員 会 費	10,645,000	11,885,000	△1,240,000
学 生 会 員 会 費	12,000	25,500	△13,500
賛 助 会 員 会 費	4,575,000	4,425,000	150,000
③ 事 業 収 入	3,028,433	8,447,461	△5,419,028
学 会 誌 出 版			
出 版 物 収 入	196,133	250,761	△54,628
掲 載 広 告 料	786,000	1,134,000	△348,000
学 会 誌 出 版 計	982,133	1,384,761	△402,628
研 究 発 表 大 会 計			
研 究 ・ 参 加 費		4,896,000	△4,896,000
研 究 ・ 懇 親 会 費		426,000	△426,000
研 究 ・ 予 稿 購 読	35,800	301,200	△265,400
研 究 発 表 大 会 計	35,800	5,623,200	△5,587,400
技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会			
技 術 ・ 参 加 費	840,000	1,090,000	△250,000
技 術 ・ 懇 親 会 費		182,000	△182,000
技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会 計	840,000	1,272,000	△432,000
企 業 交 流 会			
企 交 ・ 参 加 費	788,000		788,000
企 業 交 流 会 計	788,000		788,000
経 営 講 演 会			
経 営 講 演 参 加 費	170,000		170,000
経 営 講 演 会 計	170,000		170,000
特 別 講 座 開 催	190,000	130,000	60,000
資 格 制 度 申 請 登 録 料	22,500	37,500	△15,000
④ 受 取 補 助 金 等	350,800	176,200	174,600
精 密 測 定 財 団 審 査 助 成 金	350,800	176,200	174,600
⑤ 寄 付 金	950,000	1,180,000	△230,000
貢 献 賞 寄 付 金	140,000	20,000	120,000
一 般 寄 付 金	810,000	1,160,000	△350,000
⑥ 雑 収 入	3,571,338	3,346,759	224,579
受 取 利 息	267	236	31
事 務 所 立 退 き 料		2,400,000	△2,400,000
雑 収 入	3,102,496	15,600	3,086,896

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
貢 献 賞 基 金 引 当 金 取 崩 額	468,025	129,503	338,522
退 職 給 与 引 当 預 金 取 崩 額		800,880	△800,880
周 年 記 念 積 立 引 当 金 取 崩 額	550	540	10
経 常 収 益 計	23,220,571	29,636,920	△6,416,349
(2) 経 常 費 用			
I. 事 業 費			
事 業 経 費	7,124,588	11,401,229	△4,276,641
学 会 誌 出 版			
学 会 誌 作 成 費	5,413,852	5,136,101	277,751
学 会 誌 外 注 委 託	341,559	353,261	△11,702
学 会 誌 発 送 費	934,633	964,119	△29,486
出 版 部 会 費		1,280	△1,280
学 会 誌 出 版 計	6,690,044	6,454,761	235,283
研 究 発 表 大 会			
研 究 ・ 会 場 費		894,019	△894,019
研 究 ・ 論 文 印 刷		1,018,423	△1,018,423
研 究 ・ 大 会 経 費	23,100	811,405	△788,305
研 究 ・ 懇 親 会 費		632,678	△632,678
研 究 ・ 委 員 会 費		4,888	△4,888
研 究 ・ 2 0 2 0 準 備	96,800	211,440	△114,640
研 究 発 表 大 会 計	119,900	3,572,853	△3,452,953
技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会			
技 術 ・ 会 場 費		280,390	△280,390
技 術 ・ 資 料 印 刷	38,566	341,282	△302,716
技 術 ・ 大 会 経 費	16,254	160,155	△143,901
技 術 ・ 懇 親 会 費		232,720	△232,720
技 術 ・ 委 員 会 費	9,846	54,860	△45,014
技 術 戦 略 研 究 発 表 大 会 計	64,666	1,069,407	△1,004,741
企 業 交 流 会			
企 交 ・ 経 費	99,872		99,872
企 業 交 流 会 計	99,872		99,872
経 営 講 演 会			
経 営 講 演 経 費	63,651		63,651
経 営 講 演 会 計	63,651		63,651
教 育 特 別 講 座			
教 育 ・ 講 師 費	43,312	99,729	△56,417
教 育 ・ 教 材 保 守	42,450	41,140	1,310
教 育 特 別 講 座 計	85,762	140,869	△55,107
新 規 開 発 プ ロ ジ ェ ク ト			
新 規 フ ィ ロ シ ャ ク ト 費		90,613	△90,613

(単位：円)			
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
新規開発プロジェクト計		90,613	△90,613
研究会連携委員会費	693		693
技術向上委員会費		47,336	△47,336
資格認定経費		25,390	△25,390
事業費合計	7,124,588	11,401,229	△4,276,641
2. 管理費			
① 管理費			
広報活動費	16,500	391,480	△374,980
公式WEB経費	45,436	97,356	△51,920
広報報査計	61,936	488,836	△426,900
審査会費	44,000	120,555	△76,555
審査表彰部会費	58,488		58,488
審査査計	102,488	120,555	△18,067
記念品費			
貢献賞記念品費	268,025	129,503	138,522
会長委員長賞費		42,498	△42,498
記念品計	268,025	172,001	96,024
総務費			
労務費	4,725,803	5,557,788	△831,985
事務費	746,001	1,030,573	△284,572
印刷・通信	1,039,953	1,293,111	△253,158
総務部会費	331,950	1,283,293	△951,343
会計士・税理士	1,105,500	1,091,500	14,000
事務所賃借料	3,000,000	3,018,400	△18,400
転居費		1,193,024	△1,193,024
総務計	10,949,207	14,467,689	△3,518,482
システムメンテナンス			
WEBメンテナンス費	860,640	924,080	△63,440
IT設備費	155,244	32,282	122,962
システムメンテナンス計	1,015,884	956,362	59,522
管理費合計	12,397,540	16,205,443	△3,807,903
管理費合計	12,397,540	16,205,443	△3,807,903
経常費用計	19,522,128	27,606,672	△8,084,544
評価損益等調整前当期経常増減額	3,698,443	2,030,248	1,668,195
② 特定引当金繰入	340,114	20,111	320,003
貢献賞引当金繰入	340,012	20,012	320,000
周年記念引当繰入	102	99	3
特定資産評価損益等	△340,114	△20,111	△320,003

一般社団法人品工工会
(0001) 一般会計

収 支 計 算 書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 入金収入	123,000	88,000	35,000	
入金収入	123,000	88,000	35,000	
② 年度会費収入	16,072,000	15,232,000	840,000	
正会員会費収入	11,692,000	10,645,000	1,047,000	
学生会員会費収入	30,000	12,000	18,000	
賛助会員会費収入	4,350,000	4,575,000	△225,000	
③ 事業収入	4,415,000	3,028,433	1,386,567	
学会誌出版収入				
出版物収入	180,000	203,133	△23,133	
掲載広告料	1,000,000	786,000	214,000	
学会誌出版収入計	1,180,000	989,133	190,867	
研究発表大会収入				
研究・予備講義		28,800	△28,800	
研究発表大会収入計		28,800	△28,800	
技術戦略研究発表大会収入				
技術・参加費	1,000,000	840,000	160,000	
技術・懇親会費	210,000		210,000	
技術戦略研究発表大会収入計	1,210,000	840,000	370,000	
企業交流会収入				
企業・参加費	790,000	788,000	2,000	
企業・懇親会費	200,000		200,000	
企業交流会収入計	990,000	788,000	202,000	
経営・講演会収入				
経営講演参加費	600,000	170,000	430,000	
経営・講演会収入計	600,000	170,000	430,000	
特別講座参加費収入	300,000	190,000	110,000	
資格制度申請登録料収入	135,000	22,500	112,500	
④ 受取補助金等収入	170,000	350,800	△180,800	
精密測定財団審査助成金取	170,000	350,800	△180,800	
⑤ 寄付金収入	180,000	950,000	△770,000	
一般寄付金	160,000	810,000	△650,000	
貢献賞寄付金	20,000	140,000	△120,000	
⑥ 雑収入	150,300	3,102,763	△2,952,463	
受取利息収入	300	267	33	
雑収入	150,000	3,102,496	△2,952,496	
事業活動収入計	21,110,300	22,751,996	△1,641,696	

(単位：円)			
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
評価損益等計	△340,114	△20,111	△320,003
当期経常増減額	3,358,329	2,010,137	1,348,192
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産売却損	768,843	277,286	491,557
棚卸資産廃棄損	518,843	277,286	241,557
長期前払費用償却	250,000		250,000
経常外費用計	768,843	277,286	491,557
当期経常外増減額	△768,843	△277,286	△491,557
税引前当期一般正味財産増減額	2,589,486	1,732,851	856,635
租税公課	39	34	5
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	2,519,447	1,662,817	856,630
一般正味財産期首残高	6,692,245	5,029,428	1,662,817
一般正味財産期末残高	9,211,692	6,692,245	2,519,447
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	9,211,692	6,692,245	2,519,447

(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	10,712,200	7,124,588	3,587,612	
学会誌出版支出				
学会誌作成費	6,000,000	5,413,852	586,148	
学会誌外注委託	300,000	341,559	△41,559	
学会誌発送費	1,000,000	934,633	65,367	
出版部会費	100,000		100,000	
学会誌出版支出計	7,400,000	6,690,044	709,956	
研究発表大会支出				
研究・大会経費		23,100	△23,100	
研究・委員会費	100,000		100,000	
研究・2020準備	100,000	96,800	3,200	
研究発表大会支出計	200,000	119,900	80,100	
技術戦略研究発表大会支出				
技術・会場費	280,000		280,000	
技術・資料印刷	360,000	38,566	321,434	
技術・大会経費	160,000	16,254	143,746	
技術・懇親会費	230,000		230,000	
技術・委員会費	100,000	9,846	90,154	
技術戦略研究発表大会支出計	1,130,000	64,666	1,065,334	
企業交流会支出				
企業・経費	237,200	99,872	137,328	
企業・懇親会費	200,000		200,000	
企業交流会支出計	437,200	99,872	337,328	
経営講演会支出				
経講・会場費	180,000		180,000	
経講・懇親会費	248,000		248,000	
経講・経費	125,000	63,651	61,349	
経営講演会支出計	553,000	63,651	489,349	
教育特別講座開催支出				
教育・教材保守	80,000	43,312	36,688	
教育・講師費	122,000	42,450	79,550	
教育特別講座開催支出計	202,000	85,762	116,238	
新規開発プロジェクト支出				
新規プロジェクト費	80,000		80,000	
事業部会費	100,000		100,000	
新規開発プロジェクト支出計	180,000		180,000	
資格認定経費支出	110,000		110,000	
Vision30プロジェクト支出	50,000		50,000	

(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
企 業 普 及 委 員 会 支 出	100,000		100,000	
研 究 会 連 携 委 員 会 支 出	100,000	693	99,307	
学 校 教 育 委 員 会 支 出	100,000		100,000	
農 水 省 プ ロ ジ ェ ク ト 支 出	50,000		50,000	
技 術 向 上 委 員 会 支 出	100,000		100,000	
事 業 費 支 出 計	10,712,200	7,124,588	3,587,612	
② 管 理 費 支 出				
広 報 支 出				
宣 伝 活 動 費	370,000	16,500	353,500	
公 式 W E B 経 費	95,000	45,436	49,564	
広 報 部 会 費	100,000		100,000	
広 報 支 出 計	565,000	61,936	503,064	
審 査 支 出				
審 査 会 費	120,000	11,000	109,000	
審 査 表 彰 部 会 費	100,000	91,488	8,512	
審 査 支 出 計	220,000	102,488	117,512	
記 念 品 支 出				
貢 献 賞 記 念 品 費	173,630	268,025	△94,395	
記 念 品 支 出 計	173,630	268,025	△94,395	
総 務 支 出				
労 務 費	5,200,000	4,725,803	474,197	
事 務 費	1,000,000	746,001	253,999	
印 刷 ・ 通 信	1,200,000	1,039,953	160,047	
総 務 部 会 費	1,500,000	331,950	1,168,050	
会 計 ・ 税 理 士	1,080,000	1,105,500	△25,500	
事 務 所 賃 借 料	3,000,000	3,000,000		
総 務 支 出 計	12,980,000	10,949,207	2,030,793	
シ ス テ ム メ ン テ ナ ンス 支 出				
会 員 D B メ ン テ	170,000		170,000	
W E B メ ン テ 費	700,000	860,640	△160,640	
I T 設 備 費	300,000	155,244	144,756	
J - S t e e g e 経 費	25,000		25,000	
シ ス テ ム メ ン テ ナ ンス 支 出 計	1,195,000	1,015,884	179,116	
管 理 費 支 出 計	15,133,630	12,397,540	2,736,090	
事 業 活 動 支 出 計	25,845,830	19,522,128	6,323,702	
事 業 活 動 収 支 差 額	△4,735,530	3,229,888	△7,965,398	
Ⅱ 投 資 活 動 収 支 の 部				
1 投 資 活 動 収 入				
① 特 定 資 産 取 崩 収 入	1,173,630	501,575	672,055	
貢 献 賞 積 立 引 当 取 崩 収 入	173,630	501,025	△327,395	

(単位：円)				
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
学 会 活 動 積 立 引 当 取 崩 収 入	1,000,000		1,000,000	
周 年 記 念 積 立 引 当 取 崩 収 入		550	△550	
投 資 活 動 収 入 計	1,173,630	501,575	672,055	
2 投 資 活 動 支 出				
① 特 定 資 産 取 得 支 出	0	373,114	△373,114	
貢 献 賞 積 立 金 積 立 支 出		373,012	△373,012	
周 年 記 念 積 立 金 積 立 支 出		102	△102	
② 固 定 資 産 取 得 支 出	0	518,843	△518,843	
棚 卸 廃 棄 支 出		518,843	△518,843	
投 資 活 動 支 出 計	0	891,957	△891,957	
投 資 活 動 収 支 差 額	1,173,630	△390,382	1,564,012	
Ⅲ 財 務 活 動 収 支 の 部				
1 財 務 活 動 収 入				
財 務 活 動 収 入 計	0	0	0	
2 財 務 活 動 支 出				
① そ の 他 財 務 活 動 支 出	75,000	70,039	4,961	
租 税 公 課	5,000	39	4,961	
法 人 税 等	70,000	70,000		
財 務 活 動 支 出 計	75,000	70,039	4,961	
財 務 活 動 収 支 差 額	△75,000	△70,039	△4,961	
Ⅳ 予 備 費 支 出	300,000	—	300,000	
	0			
当 期 収 支 差 額	△3,936,900	2,769,447	△6,706,347	
前 期 繰 越 収 支 差 額	5,192,245	5,192,245	0	
次 期 繰 越 収 支 差 額	1,255,345	7,961,692	△6,706,347	

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現金・預金	26,465	41,887	△15,422
流動資産合計	26,465	41,887	△15,422
2 固 定 資 産			
(1) そ の 他 固 定 資 産			
学 生 賞 積 立 引 当 預 金	694,317	793,067	△98,750
そ の 他 固 定 資 産 合 計	694,317	793,067	△98,750
固 定 資 産 合 計	694,317	793,067	△98,750
資 産 合 計	720,782	834,954	△114,172
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
未 払 金		39,380	△39,380
流動負債合計	0	39,380	△39,380
2 固 定 負 債			
学 生 賞 基 金 引 当 金	694,317	793,067	△98,750
固 定 負 債 合 計	694,317	793,067	△98,750
負 債 合 計	694,317	832,447	△138,130
III 正 味 財 産 の 部			
1 一 般 正 味 財 産	32,075	2,507	29,568
正 味 財 産 合 計	32,075	2,507	29,568
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	726,392	834,954	△108,562

決算書

第4期

自 平成 31 年(2020) 4 月 1 日

至 令和 2 年(2021) 3 月 31 日

2) 学生賞

一般社団法人 品質工学会

- 1 -

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一 般 正 味 財 産 増 減 の 部			
1 経 常 増 減 の 部			
(1) 経 常 収 入			
① 雑 収 入	98,758	8	98,750
受 取 利 息 収 入	8	8	
学 生 賞 積 立 引 当 金 取 崩 額	98,750		98,750
経 常 収 入 計	98,758	8	98,750
(2) 経 常 費 用			
1. 事 業 費			
事 業 経 費	68,750	39,380	29,370
学 生 賞 審 査 経 費	68,750	39,380	29,370
事 業 費 合 計	68,750	39,380	29,370
2. 管 理 費			
① 管 理 費			
総 務 費	440	432	8
総 務 費 計	440	432	8
管 理 費 合 計	440	432	8
経 常 費 用 計	69,190	39,812	29,378
評価損益等調整前当期経常増減額	29,568	△39,804	69,372
評 価 損 益 等 計	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額	29,568	△39,804	69,372
2 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 入			
経 常 外 収 入 計	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
税 引 前 当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	29,568	△39,804	69,372
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	29,568	△39,804	69,372
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	2,507	42,311	△39,804
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	32,075	2,507	29,568
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正 味 財 産 期 末 残 高	32,075	2,507	29,568

収支計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事 業 活 動 収 支 の 部				
1 事 業 活 動 収 入				
① 雑 収 入	0	8	△8	
受 取 利 息 収 入		8	△8	
事 業 活 動 収 入 計	0	8	△8	
2 事 業 活 動 支 出				
① 事 業 費 支 出				
事 業 経 費 支 出	30,000	68,750	△38,750	
学 生 賞 審 査 支 出	30,000	68,750	△38,750	
事 業 費 支 出 計	30,000	68,750	△38,750	
② 管 理 費 支 出				
総 務 支 出				
事 務 費		440	△440	
総 務 支 出 計		440	△440	
管 理 費 支 出 計	0	440	△440	
事 業 活 動 支 出 計	30,000	69,190	△39,190	
事 業 活 動 収 支 差 額	△30,000	△69,182	39,182	
II 投 資 活 動 収 支 の 部				
1 投 資 活 動 収 入				
① 特 定 資 産 取 崩 収 入	30,000	98,750	△68,750	
学 生 賞 引 当 預 金 取 崩 収 入	30,000	98,750	△68,750	
投 資 活 動 収 入 計	30,000	98,750	△68,750	
2 投 資 活 動 支 出				
投 資 活 動 支 出 計	0	0	0	
投 資 活 動 収 支 差 額	30,000	98,750	△68,750	
III 財 務 活 動 収 支 の 部				
1 財 務 活 動 収 入				
財 務 活 動 収 入 計	0	0	0	
2 財 務 活 動 支 出				
財 務 活 動 支 出 計	0	0	0	
財 務 活 動 収 支 差 額	0	0	0	
IV 予 備 費 支 出				
当 期 収 支 差 額	0	29,568	△29,568	
前 期 繰 越 収 支 差 額	2,507	2,507	0	
次 期 繰 越 収 支 差 額	2,507	32,075	△29,568	

決算書

第4期

自 平成 31 年(2020) 4 月 1 日

至 令和 2 年(2021) 3 月 31 日

3) 地震 MT)

一般社団法人 品質工学会

一般社団法人品質工学会
(0004) 地震予知MTシステム研究特別会計

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一 般 正 味 財 産 増 減 の 部			
1 経 常 増 減 の 部			
(1) 経 常 収 入			
① 雑 収 入	2	2	0
受 取 利 益 計 总	2	2	
経 常 収 益 計	2	2	0
(2) 経 常 費 用			
1. 管 理 費			
① 管 理 費			
総 務 費	550	540	10
事 務 費 計	550	540	10
管 理 費 合 計	550	540	10
経 常 費 用 計	550	540	10
評価損益等調整前当期経常増減額	△548	△538	△10
評 価 損 益 等 計	0	0	0
当 期 経 常 増 減 額	△548	△538	△10
2 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△548	△538	△10
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△548	△538	△10
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	28,112	28,650	△538
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	27,564	28,112	△548
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正 味 財 産 期 末 残 高	27,564	28,112	△548

一般社団法人品質工学会
(0004) 地震予知MTシステム研究特別会計

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 ・ 預 金	27,564	28,112	△548
流 動 資 産 合 計	27,564	28,112	△548
2 固 定 資 産			
(I) そ の 他 固 定 資 産			
地 震 予 知 積 立 引 当 預 金	302,946	302,946	0
そ の 他 固 定 資 産 合 計	302,946	302,946	0
固 定 資 産 合 計	330,510	331,058	△548
II 負 債 の 部			
1 固 定 負 債			
地 震 予 知 基 金 引 当 金	302,946	302,946	0
固 定 負 債 合 計	302,946	302,946	0
負 債 合 計	302,946	302,946	0
III 正 味 財 産 の 部			
1 一 般 正 味 財 産	27,564	28,112	△548
正 味 財 産 合 計	27,564	28,112	△548
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	330,510	331,058	△548

一般社団法人品質工学会
(0004) 地震予知MTシステム研究特別会計

収支計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事 業 活 動 収 支 の 部				
1 事 業 活 動 収 入				
① 雑 収 入	0	2	△2	
受 取 利 息 収 入		2	△2	
事 業 活 動 収 入 計	0	2	△2	
2 事 業 活 動 支 出				
① 事 業 費 支 出				
事 業 経 費 支 出	30,000	0	30,000	
地 震 予 知 委 員 会 支 出	30,000		30,000	
事 業 費 支 出 計	30,000	0	30,000	
② 管 理 費 支 出				
総 務 支 出				
事 務 費		550	△550	
総 務 支 出 計		550	△550	
管 理 費 支 出 計	0	550	△550	
事 業 活 動 支 出 計	30,000	550	29,450	
事 業 活 動 収 支 差 額	△30,000	△548	△29,452	
II 投 資 活 動 収 支 の 部				
1 投 資 活 動 収 入				
① 特 定 資 産 取 崩 収 入	30,000	0	30,000	
地 震 予 知 引 当 預 金 取 崩 収 入	30,000		30,000	
投 資 活 動 収 入 計	30,000	0	30,000	
2 投 資 活 動 支 出				
投 資 活 動 支 出 計	0	0	0	
投 資 活 動 収 支 差 額	30,000	0	30,000	
III 財 務 活 動 収 支 の 部				
1 財 務 活 動 収 入				
財 務 活 動 収 入 計	0	0	0	
2 財 務 活 動 支 出				
財 務 活 動 支 出 計	0	0	0	
財 務 活 動 収 支 差 額	0	0	0	
IV 予 備 費 支 出				
	0	—	0	
当 期 収 支 差 額	0	△548	548	
前 期 繰 越 収 支 差 額	28,112	28,112	0	
次 期 繰 越 収 支 差 額	28,112	27,564	548	

決算書

第4期

自 平成 31 年(2020) 4 月 1 日

至 令和 2 年(2021) 3 月 31 日

4) 田口賞

一般社団法人 品質工学会

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 雑収入	48	48	0
受取利息	48	48	
経常収益計	48	48	0
(2) 経常費用			
I. 管理費用			
① 管理費			
総務費	520	510	10
総務費計	520	510	10
管理費用計	520	510	10
経常費用合計	520	510	10
評価損益等調整前当期経常増減額	△472	△462	△10
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△472	△462	△10
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△472	△462	△10
租税公課	6	6	0
当期一般正味財産増減額	△478	△468	△10
一般正味財産期首残高	482,668	483,136	△468
一般正味財産期末残高	482,190	482,668	△478
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	482,190	482,668	△478

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	482,190	482,668	△478
流動資産合計	482,190	482,668	△478
2 固定資産			
(I) その他固定資産			
田口賞積立引当預金	4,350,000	4,350,000	
その他固定資産合計	4,350,000	4,350,000	0
固定資産合計	4,350,000	4,350,000	0
資産合計	4,832,190	4,832,668	△478
II 負債の部			
1 固定負債			
田口賞基金引当金	4,350,000	4,350,000	
固定負債合計	4,350,000	4,350,000	0
負債合計	4,350,000	4,350,000	0
III 正味財産の部			
1 一般正味財産	482,190	482,668	△478
正味財産合計	482,190	482,668	△478
負債及び正味財産合計	4,832,190	4,832,668	△478

正味財産増減計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 雑収入	48	48	0
受取利息	48	48	
経常収益計	48	48	0
(2) 経常費用			
I. 管理費用			
① 管理費			
総務費	520	510	10
総務費計	520	510	10
管理費用計	520	510	10
経常費用合計	520	510	10
評価損益等調整前当期経常増減額	△472	△462	△10
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△472	△462	△10
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△472	△462	△10
租税公課	6	6	0
当期一般正味財産増減額	△478	△468	△10
一般正味財産期首残高	482,668	483,136	△468
一般正味財産期末残高	482,190	482,668	△478
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	482,190	482,668	△478

収支計算書

令和 2 年 4 月 1 日から 令和 3 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 雑収入	0	48	△48	
受取利息収入		48	△48	
事業活動収入計	0	48	△48	
2 事業活動支出				
① 事業費支出				
事業経費支出	400,000	0	400,000	
田口賞審査支出	400,000		400,000	
事業費支出計	400,000	0	400,000	
② 管理費支出				
総務費支出		520	△520	
総務費支出計		520	△520	
管理費支出計	0	520	△520	
事業活動支出計	400,000	520	399,480	
事業活動収支差額	△400,000	△472	△399,528	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	400,000	0	400,000	
田口賞引当預金取崩収入	400,000		400,000	
投資活動収入計	400,000	0	400,000	
2 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	400,000	0	400,000	
III 財務活動収支の部				
1 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2 財務活動支出				
① その他財務活動支出	0	6	△6	
租税公課		6	△6	
財務活動支出計	0	6	△6	
財務活動収支差額	0	△6	6	
IV 予備費支出	0	—	0	
	0			
当期収支差額	0	△478	478	
前期繰越収支差額	482,668	482,668	0	
次期繰越収支差額	482,668	482,190	478	

監査報告書

一般社団法人 品質工学会
代表理事 椿 広計 殿

2021 年 6 月 17 日

一般社団法人 品質工学会

監事

印

監事

久米厚宏之 

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 2020 年度における会計および業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (3) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収入および財産の状況を正しく示していると認める。
- (4) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (5) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

監査報告書

一般社団法人 品質工学会
代表理事 椿 広計 殿

2021 年 6 月 21 日

一般社団法人 品質工学会

監事 折戸 文夫



監事

印

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 2020 年度における会計および業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (3) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収入および財産の状況を正しく示していると認める。
- (4) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (5) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

報告

(1) 2021 年度事業計画 目次

事業活動の方針と概要

- 理想を目指して 新たな品質工学の道

事業計画

(1) 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

- 1.1. 田口の考え方の収集・整理 (V30 プロジェクト)
- 1.2. 研究会との連携強化 (研究会連携委)
- 1.3. 品質工学の体系化 (技術向上委)
- 1.4. 品質工学新領域開拓 (")
- 1.5. 品質工学手法研究 (")

(2) 品質工学の普及、およびその奨励、助成

- 2.1. 資格制度の制定 (認定委)
- 2.2. 品質工学教育特別講座の開催 (事業部会)
- 2.3. 解析支援ツールの提供 (")
- 2.4. 広報活動の強化 (広報部会)
- 2.5. 工業技術センターを通じた普及 (企業普及委)
- 2.6. 企業向けテキストの作成 (組織統括部)

(3) 品質工学の研究、普及および当法人への

多大な貢献に対する表彰 (審査表彰部会)

- 3.1. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞
- 3.2. 品質工学会 ASI 賞
- 3.3. 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞
- 3.4. 研究発表大会 会長賞/実行委員長賞
- 3.5. 日本規格協会 理事長賞
- 3.6. 学生賞
- 3.7. 田口賞
- 3.8. 貢献賞 (総務部会…貢献賞のみ)

(4) 学会誌その他の刊行物の発行

- 4.1. 学会誌「品質工学」の発行 (出版部会)

(5) 研究発表大会、研究集会、…等の開催

- 5.1. 創立 30 周年企画 (全体)
- 5.2. ICRQE (開催検討委)
- 5.3. 品質工学研究発表大会 (発表大会実行委)
- 5.4. 品質工学技術戦略発表大会 (戦略実行委)
- 5.5. 企業交流会 (事業部会)
- 5.6. 経営交流会 (")
- 5.7. 学校交流会 (学校教育委)

(6) 品質工学情報の収集、提供

- 6.1. 論文電子公開(J-Stage) (総務部会)
- 6.2. 田口データベースの構築 (V30 プロジェクト)
- 6.3. 事例・論文データベースの構築 (技術向上委)
- 6.4. 品質工学用語集の公開 (技術向上委)
- 6.5. 品質工学関連書籍の収集 (総務部会)

(7) 内外の関係団体との連絡および提携

- 7.1. 日本規格協会 (審査表彰部会)
- 7.2. 日本品質管理学会 (事業部会)
- 7.3. 産業技術総合研究所 (")
- 7.4. 農林水産省 (技術向上委)
- 7.5. JAXA (事業部会)
- 7.6. 消費者庁 (総務部会)

(8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- 8.1. 会議体運営 (総務部会)
- 8.2. 予算管理 (総務部会)
- 8.3. 代議員選挙、理事改選 (総務部会)
- 8.4. コロナ対応 (総務部会)
- 8.5. 貢献賞 (総務部会)
- 8.6. 規程整備 (総務部会)

報告

(1) 2021 年度事業計画

事業活動の方針と概要

➤ **理想を目指して 新たな品質工学の道**

2021 年度は、引き続き、制定した「理想を目指して 新たな品質工学の道」を活動の拠り所とし、"Vision30" を実現するために策定した中長期計画を実行するプロジェクト活動を行っていきます。2022 年度は、中長期計画の終わりの年度となります。そのため第二次 5 か年計画を立案すべく、準備を行います。。

そのねらいである

- 1. 自己実現と社会認知**
- 2. 新しい品質工学の考え、手法の開発**
- 3. イノベーションへの貢献**

これらのそれぞれに設定したプロジェクトをそれぞれ加速していきます。2020 年度までに研究した結果については積極的に学会誌を通じて報告するとともに、完成した解析ツールの配布とこれを使った教育機会の充実、制定した認定制度の運用、田口博士の考え方の構想化とテキスト化と出版、経産省、JAXA、日本品質管理学会などの公的機関との共同研究の活発化です。また、品質工学を組織的に展開する企業のマネジメントの参加など、より多く会員の学習の機会と研究の機会を充実していきます。これらの活動を踏まえて、ビジョン 30 の活動の成果として設立 30 周年記念にむけて成果が得られるよう活動をしていきます。また、あらたにビジョン 35 の設定にむけての活動を開始いたします。

2020 年度の活動をさらに活性化すると同時に、あらたな自己実現と社会認知についての可能性を追求していきます。

➤ **品質工学会創立 30 周年および田口玄一博士没後 10 周年の記念事業の企画**

2022 年は学会創立 30 年、かつ田口先生がご逝去されて 10 年の節目の年です。これに向け、記念事業の企画検討を実行します。

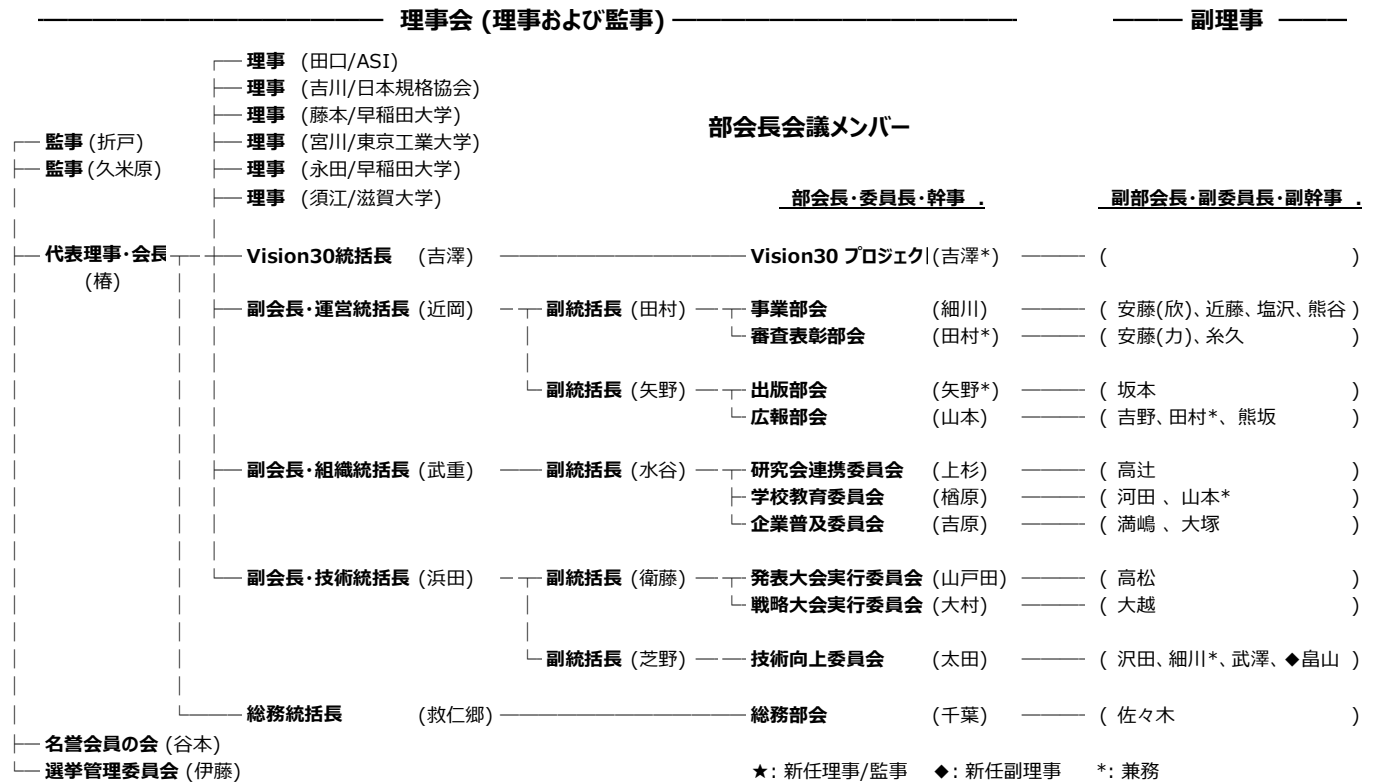
理事会および執行体制

2021 年度は、以下の体制で学会を運営します。

執行のための組織(部会/委員会)は、前年度と同様の「事業・組織・技術」の 3 統括部体制であります。

2021年度 一般社団法人 品質工学会 執行役員体制

2021年 4月 1日



- 1) **理事会**: 定款第 31～36 条に規定される「この法人の業務執行の決定機関」として、定例開催(9、12、3、6 月) します。また必要に応じて、臨時またはメール審議と臨機に開催します。
- 2) **部会長会議**: 学会運営の執行に関わる検討・論議、情報共有、調整および進捗管理のための会議体で、毎月(原則第 2 水曜)開催します。
- 3) **定時社員総会**: 2021 年 6 月 25 日(金)、品質工学研究発表大会の第 2 日に開催を予定しています。

事業計画概要

運営統括部全般

- 1) 従来から運営してきた企業交流会企画委員会、教育・普及委員会、新規事業委員会（商品開発プロセス研究会、ファブシステム研究会）、経営委員会（次世代経営研究会）、編集委員会、広報部会、審査表彰部会の活動をさらに活発に行うことに加えて、本年度は前年度で計画された企画の中で本年度に繰り越した課題は本年度中に完了させる、もしくは運営の標準化を行うことを目指します。
- 2) 日本規格協会、日本品質管理学会、日本科学技術連盟、宇宙航空研究開発推進機構、産業技術総合研究所、公的機関の経済産業省、農林水産省との連携を強化していきます。それらの活動を強化することにより、品質工学の社会への発信をさらに広げていきます。
- 3) 品質工学エンジニア認定制度の運営体制を見直し運営統括部直轄とします。そして資格認定制度に対する会員の認知度を高め、認定の応募者を増やす活動を強化いたします。
- 4) 広報活動の中で、学会ホームページ（HP）の活用をさらに充実させていきます。また、それに伴う運営体制の仕組みを整えます。
- 5) 学会誌「品質工学」の発行間隔を隔月毎から 3 か月毎に変更いたします。それに伴うイベント及び告知情報をタイムリーに提供することへの問題は、広報部会および総務部会と連携して他の情報提供手段も併用して対応していきます。
- 6) 英文電子ジャーナル発刊準備：以下の 3 つを目的に英文電子ジャーナルの発刊に向けて活動を開始します。
 - a. 日本発の品質工学を海外に発信するインフラとする
 - b. 研究成果を世界に発信することによるモチベーションアップ
 - c. 海外の情報を日本国内で共有化する

組織統括部全般

それぞれの部会の重要課題を以下に設定し、他部会と連携して活動することと致しました。

- 企業普及は、品質工学を企業が理解できるようにまとめ、それを企業に伝えることが肝である。
- 学校教育は、品質工学を通して学生を育てることが肝である。
- 研究会連携は、横通しのコミュニケーションが取れる状況を創ることが肝である。

技術統括部全般

1. 大会運営・企画

- RQES2021S(研究発表大会)、RQES2021A(技術戦略大会)、ICRQE2021(国際発表会)は全面オンライン開催を決定しており、実行委員会を中心に、各部会の協力を得て、オンラインならではの企画、運営を工夫して実施します。

2. 技術向上活動

工数増加も期待できないことから継続中のテーマについて進捗を図ります。

- 「体系化」については、データベース化の作業を進め、公開する予定です。
- 「新領域適用」については、商品開発プロセス研究会の WG 活動に委員として継続参加します。
- 「手法研究」については、MT システム、バーチャル設計、SN 比、直交表、損失関数などから具体的なテーマを選定して議論を行い、成果を学会誌に投稿していく予定です。
- 「品質工学用語」については、用語集の公開を行います。併せて、用語集掲載の用語の説明と既存の用語規格掲載の用語の定義内容の整合性を精査し、規格用語の追加、定義の見直しを行う予定です。

事業計画

(1) 品質工学の研究と調査、およびその奨励、助成

1.1. 田口の考え方の収集・整理

…… Vision30 プロジェクト

2019 年度の成果をもとに、田口が提案する品質工学を 12 の領域で、テキスト化を行うプロジェクトを設定し作成する活動を開始します。

1.2. 研究会との連携強化

…… 研究会連携委員会

公認研究会規程を制定し、新しく制定した公認研究会規程の下で、公認研究会と連携を強め、以下の施策を実施していきます。

1) 研究会連携委員会活動

- ・ 今後 2 年間(2021~2022)をフェーズ 1 "横通しのコミュニケーションによる地方連携の土台づくり"とし、以下の活動を実施します。
- ・ (1)横通しの連携を促進します。
- ・ (2)地方研究会と連携して品質工学の企業向けテキストを作成し、地方研究会をととして、企業普及をはかります。

2) 横通しの連携の促進

- ・ 地方研究会間、及び学会と地方研究会間の横通しのコミュニケーションを促進していきます。
- ・ そのための施策の例を以下に述べます。
- ・ ①地方研究会定例会・イベントスケジュールのオープン化による研究会間交流の促進
- ・ ②学会からの WEB 会議ツールの提供による地方研究会の定例会
- ・ ・イベント・講演会の WEB 開催の促進
- ・ ③品質工学シンポジウム（関西品質工学研究会等 4 研究会による開催）への支援
- ・ ④RQES2021S における研究会オーガナイズドセッションの開催
- ・ ⑤RQES2021S における全国研究会活動展の開催。

3) 学会誌への研究会報告掲載の推進

- ・ 継続して実施していきます。

1.3. 品質工学の体系化

…… 技術向上委員会

事例データベースの作成

DB 作成を継続し、9 月末完成を目指します。そのうえで、DB の公開方法と管理方法を決定、新規データの入力方法を決定し、公開を目指します。

1.4. 品質工学新領域開拓

…… 新規事業委員会、技術向上委員会

商品開発プロセス研究会の活動を引き続き行っていきます。マイルストーンとして 2021 年 10 月末までに、各 WG の研究成果を盛り込み新商品開発プロセスの全体をつなげた推奨プロセスモデルをまとめ、第一次の研究報告書を作成いたします。その研究報告を 2021 年 11 月開催の日本品質管理学会年次大会発表会に発表する予定です。また、その中間報告として 2021 年 6 月開催の品質工学研究発表大会に企画セッションとして発表いたします。

2021 年 10 月で、発足後 3 年の経過となり当初の中期計画期間を過ぎることから、改めて研究会をさらに 3 年間継続していく中期計画を 2021 年 8 月初旬までにまとめ、JSQC と RQES の両学会で承認手続きを行う予定です。

1.5. 品質工学手法研究

…… 技術向上委員会

委員会として下記の活動を実施します。

- ① 博士論文としての必要条件、要素、内容等を検討。
- ② 研究（論文）レベルの向上に繋がる課題（テーマ）を抽出
(MT システム、バーチャル設計、SN 比、直交表、損失関数などから選定予定)
- ③ 課題に対して委員会メンバーで議論
- ④ 検討結果を学会誌に掲載し会員との意見交換を実施。

(2) 品質工学の普及、およびその奨励、助成

2.1. 資格制度の運用

…… 品質工学エンジニア認定委員会

認定制度の運営体制を見直し運営統括部直轄とします。そして資格認定制度に対する会員の認知度を高め、認定の応募者を増やす活動を強化いたします。

2.2. 品質工学教育特別講座の開催

…… 事業部会

特別講座については Web 形式でパラメータ設計コースと MT コースを実施し、学会誌へ実施報告を掲載します。

実施済みの計 9 回の特別講座全体に関する座談会を企画します。

新規 Web 講座は入門者向けを想定し、普及 WG の解析支援ツール講座と連携を取り、企画します。

2.3. 解析支援ツールの提供

…… 事業部会

パラメータ設計解析支援ツールを活用した入門者向けの講座を今年度リモート講座として実施いたします。

MT 法解析支援ツールを使用した入門者向けの講座を新規に企画します。

パラメータ設計解析支援ツール及び MT 法解析支援ツールの継続的なフォローを実施いたします。

会員企業向けに 1 契約口数に対して複数のライセンスが提供できるように解析支援ツールのダウンロードシステムの更新を行います。

2.4. 広報活動の強化

..... 広報部会

(1) 広報宣伝活動について

個人会員はもとより賛助会員の獲得を図るべく、Web ページの情報の刷新と学会誌と連携した情報発信を実施していきます。

- Web ページのコンテンツ充実のために各部会と協力をして、ページの見易さと情報の新しさに留意して、ステークホルダーとの関係を深化させる方法について考えていきます。
- カタログ展示を含む広報事業について、効果のあるものとするための方策についてまとめます。品質工学会の活動を広く認知してもらうための方策について検討します。
- 今後の広告事業に関して、広告代理店との協議の上方向性を定めます。
- 品質工学研究発表大会の前後に 2 回、日刊工業新聞紙面で開催告知と結果報告を掲載することを検討し、周知と参加者拡大を図ります。また、学会ホームページに大会の情報を掲載します。
- 第 14 回品質工学技術戦略研究発表大会の宣伝告知を実施し参加者の確保に務めます。

(2) 学会ホームページについて

学会誌の季刊化に伴い、ホームページを通して提供する会員サービスをさらに充実したものにすべく、広報部会委員会での議論を継続します。

- 総務部会、事業部会と連携して内容構成の拡充を進めていきます。
- 情報発信の正確性と迅速性を高めるために、ホームページ編集ソフトのライセンス数を増加し、各部会のコンテンツオーナーが掲載内容を編集できる体制を構築します。

2.5. 工業技術センターを通じた普及の検討

..... 企業普及委員会

引き続き、品質工学会内のノウハウ、アイテム等を活用して普及メニューを検討します。

- ① 都立工業技術研究センターを核とした東京品質工学会研究会の発足のための準備を進める。
- ② 都立工業技術研究センターの品質工学セミナーの講師を担当します。2021 年 10 月実施予定。

新

2.6. 企業向けテキストの作成

..... 組織統括部

企業向け品質工学のテキストの作成に着手します。完成は 2022 年末を目標とします。企業普及委員会と研究会連携委員会が共同で、以下の施策を実施し、全国の研究会を通して、企業への普及を図ります。

- (1) Vision30_田口の考え方の構造化活動への地方研究会有志の参加
- (2) 研究会の合同による企業向けテキストの作成

(3) 品質工学の研究、普及および当法人への多大な貢献に対する表彰

3.1. 公益財団法人 精密測定技術振興財団 品質工学賞 論文賞

..... 審査表彰部会

学会誌「品質工学」の 2021 年発行号に掲載された論文を対象に授賞を選定します。

3.2. ASI 賞

..... //

学会誌「品質工学」に掲載された報文を対象に授賞を選定します。

3.3. 一般財団法人 日本規格協会 理事長賞 //

3.4. 学生賞 //

上記 2 賞については、賞の魅力向上の方策について検討し、応募促進を図ります。

3.5. 公益財団法人 精密測定技術振興財団 品質工学賞 発表賞 //

3.6. 品質工学研究発表大会 会長賞および実行委員長賞 //

2021 年 6 月の研究発表大会にて、発表賞、会長賞、大会実行委員会会長賞を選定します。

3.7. 田口賞 //

田口賞の応募促進を図るため、初心に立ち返り田口賞の認知向上の施策を検討します。

田口賞応募促進施策の一つとして、自己審査ツールの提供について検討します。

3.8. 賞の見直しについて //

現在の品質工学会の表彰体系と各賞の位置づけを明確にしたうえで、必要に応じて表彰審査基準の見直しを図ります。

会員功労賞の新設について検討した結果、貢献賞と同じ範疇となることを確認しました。今後は、総務部会に検討を引き継ぎます。

3.9. 発表事例、掲載論文のレビュー //

今年度も大会発表振り返り、論文振り返りを実施し、結果を学会誌に掲載します。

3.10. 貢献賞 総務部会

貢献賞授賞： 貢献賞得点基準に則り、学会員の品質工学発展および学会活動への貢献/努力の累計ポイントに基づいて、金賞、銀賞、銅賞、入賞を大会表彰式で授与します。また、ポイント基準等について見直しを図ります。

(4) 学会誌その他の刊行物の発行

4.1. 学会誌「品質工学」の発行 出版部会

本年よりの季刊化により、本年度は Vol. 29、No. 2(4 月)、No. 3(7 月)、No. 4(10 月)、Vol. 30、No. 1(1 月)の計 4 号を発行します。

- 1) 季刊化移行に伴い、それに対応するよう規定等の修正対応を行う予定です(英文対応も含め)。全体に古くなっている投稿規定や、査読プロセス等を見直す計画です。
- 2) 「QE スクエア」では設置しましたが、手間を省く意味で、電子データでの投稿受付のシステムの計画・検討を開始する予定です。
- 3) 自由記載欄である「QE スクエア」の掲載本数を増やしたいと考えています。
- 4) 会員の高齢化、世代交代を鑑み、「田口玄一を知る人」のインタビューを行い解説記事(対談形式)とし、後世に伝えていきたいと考えています。Vol. 28、No. 1 の田口伸氏の原稿から掲載を開始しました。コロナ禍で対面取材が中断気味であったので、2021 年に入ってからメール形式で取材を継続しています。
- 5) 論説・解説の掲載本数を隔月刊のレベルで維持していくように考えています。
- 6) 春の大会の発表事例から優秀なものをピックアップし、例年同様、投稿を呼びかける予定です。社

外発表に対するコンプライアンスの強化等で対外発表が年々困難になりつつあることから、一度公表済対応である春の大会発表者への働きかけを中心に行う予定です。季刊化に踏み切りましたが、投稿働きかけ等、何らかの手法で隔月刊時代のページ数を維持するよう努力をします。

- 7) 少し先の話になりますが、2022 年の学会創設 30 周年に対する企画案を温めたく検討を開始します。
- 8) 新規の編集委員の育成を心掛けるよう努力をします。特に投稿経験者やベテラン会員も含めての想定をします。
- 9) シミュレーション・MBD 等の新しい方法への応用に対し、解説記事等の展開を検討中です。第一弾はシミュレーションでしたが、品質工学の中で新しく取り組んでいるような分野について、議論が深まるような横断的な記事の投稿を依頼する予定です。

(5) 研究発表大会、研究集会、講演会、講習会、見学会等の開催

5.1. 創立 30 周年企画

..... 全体

新たに立ち上げた経営交流会準備委員会にて経営層向け事業の中長期の企画を検討し、経営層向け事業の活動を開始いたします。

5.2. ICRQE

..... ICRQE 開催検討委員会

本年度は、品質工学会が主催し、9 月に開催することとしました。

以下の準備を進めます。発表者募集：～4 月末、発表採用検討 & 通知 ～5 月中旬、予稿提出 7 月末、発表動画、テキスト提出 8 月 23 日、国際大会 9 月 10 日～17 日。

5.3. 品質工学研究発表大会

..... 発表大会実行委員会

第 29 回品質工学研究発表大会 (RQES2021S) は、2021 年 6 月 24 日、25 日に、完全オンラインで開催します。統計数理研究所を運営会場として、地方研究会を含めた 77 件の発表を実施する予定です。また、実行委員特別企画として、「基調講演」および「商品開発プロセス研究会活動報告」を実施します。

5.4. 品質工学技術戦略発表大会

..... 戦略大会実行委員会

第 14 回品質工学技術戦略研究発表大会 (RQES2021A) を 2021 年 11 月 26 日に、星陵會館ホール（千代田区永田町）で開催します。引き続き、IT との結合による品質工学の有効性を議論する予定です。現在、実行委員会を開催し、講演と発表のテーマアップをしています。

今年度も完全リモート開催か、会場開催とリモートとの併用開催も含めて準備を進めていきます。

5.5. 企業交流会

..... 事業部会

次回第 32 回は自動車などの最終製品向けに部品やモジュール等を提供する企業様に焦点をあてることにしました。この大きな変革期の中でいかに提供価値を増大していくかが部品やモジュール提供企業、さらには材料提供企業の経営課題であるという認識の下に、「要求仕様達成型から価値提案型への事業変革」というテーマを設定し、各社の取組みを共有する場を提供する場とします。

2021.3 月時点で以下の 2 社からこの趣旨に賛同していただき、ご発表の快諾を頂いております。

アルプスアルパイン（株）澤田元技術顧問 “基調講演”

未来工業（株）山田社長 “特別講演”

5.4. 次世代経営研究会

..... 事業部会

次世代経営研究会の活動を引き続き行っていきます。基調講演とパネルディスカッションを基本の構成とした定例会を3か月毎に開催します。また、長期的に議論するテーマを設定し、複数のWG活動を設置します。WG活動はWebを活用し、頻繁に議論していく形式です。そこで抽出された課題、話題を定例会のプログラムに繋げていきます。

・国立研究開発法人産業技術総合研究所との技術交流を促進するために、その国家プロジェクトから発展した一般社団法人ミニマルファブ推進機構のファブシステム研究会を通して、産業技術総合研究所および半導体産業への啓蒙を引き続き促進していきます。

5.5. 学校交流会の開催

..... 学校教育委員会

2021年度は以下の予定で「学校交流会」を開催し、優秀な発表を表彰します。

- (1) 2021年6月に学校教育委員会を遠隔会議にて開催します。
- (2) 2021年8月と2022年3月に学校交流会を開催します。

(6) 品質工学情報の収集、提供

6.1. 論文電子公開(J-Stage)

..... 総務部会

J-Stageで公開中の学会誌「品質工学」掲載論文については、遅れている掲載&公開を計画通り(学会誌発行1年後)の状態にします。そのために、担当工数の増強を図ります。

6.2. 田口データベースの構築

..... Vision30プロジェクト

「1.1. 田口の考え方の収集・整理」参照

6.3. 事例・論文データベースの構築

..... 技術向上委員会

「1.3. 品質工学の体系化」参照

6.4. 品質工学用語集の公開

..... 技術向上委員会

学会HPで公開するとともに、

- ① 品質工学規格との関係を明確にします。
- ② 運用方法を明確にします。

6.5. 品質工学関連図書および文献の収集・・・田口玄一博士の著書を主に

..... 総務部会

品質工学および関連の貴重な文献の散逸を防ぎ、会員の調査研究の用に供するため、文献資料収集事業を実施します。まず、田口玄一博士の著作を主に、寄贈を募り、学会事務所に「水道橋文庫」として収蔵と閲覧の便を図ります。

関連書籍・文献をご寄贈いただける方は、事務局までご連絡ください。

(7) 内外の関係団体との連絡および提携

7.1. 一般財団法人 日本規格協会

..... 審査表彰部会

引き続き、「日本規格協会理事長賞」のスポンサーシップいただける関係を維持し、品質工学エンジニア認定制度と、品質工学版 QC 検定(仮)との連携について、両者での検討を進めます。

7.2. 一般社団法人 日本品質管理学会

..... 事業部会

★「商品開発プロセス研究会」：商品開発プロセス研究会の活動を引き続き行っていきます。研究報告を 2021 年 6 月開催の品質工学研究発表大会に発表いたします。

★「JAQ 品質連絡協議会」：日本品質管理学会、日本規格協会、日本能率協会を始めとする品質関連団体が集まり、昨今のデータ改ざん問題など、日本の品質問題についてオールジャパンで対応する組織を発足させる準備が進められており、品質工学会として主旨に賛同し参画します。

7.3. 国立研究開発法人 産業技術総合研究所

..... 事業部会

ミニマルファブ推進機構のファブシステム研究会を通して、産業技術総合研究所および半導体産業への啓蒙を引き続き促進していきます。

7.4. 農林水産省

..... 技術向上委員会

農水省プロジェクトについて、あらためてニーズの把握、目的、目標等見直しを行い、活動方針を再検討します。

7.5. JAXA/宇宙航空研究開発機構

..... 事業部会

JAXA 品質工学研究会への参画：JAXA の JIANT システムと品質工学のパラメータ設計の連携性の研究を継続します。

7.6. 消費者庁

..... 総務部会

昨年度に完了した幼児同乗自転車走行安定性の評価について、品質工学の観点からまとめて報告します。

(8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業 総務部会

8.1. 会議体運営

総会： 発表大会が復活することで、そのリモート開催と連携して開催することとします。

理事会： 定例の年 4 回(6、9、12、3 月)の開催の他、必要に応じて、臨時招集またはメール審議として開催します。

部会長会議： 毎月 1 回計 12 回定例通りに開催します。

以上の他に、来年度 2022 年は学会創立 30 周年にあたるため、記念事業を含む企画検討のための会議体、またその先の将来構想のための会議体を発足させます。

8.2. 予算管理(全般、会費徴収管理など)

コロナ 2 年目となり、新規入会の減少、イベントの全面的なリモート開催に応じた予算策定と管理に留意します。(予算案作成段階では今年度の給付金は見込めていない)

その中であっても、将来の為、品質工学の発展と会員増加につながる活動には積極的に予算をつける方針としました。

8.3. 代議員選挙、理事改選

現代議員・理事・監事の任期満了(2022 年 6 月)に向け、本年秋より準備を開始し、代議員選

挙の公示を 12 月、投票を年度末まで実施する。また理事監事候補選出のための推薦委員会を年明け 1 月に発足させ、年度末には第一次候補者リストを作成します。

8.4. コロナ対応

引き続き、コロナ対応方針の下、感染拡大防止を徹底します。

8.5. 貢献賞

2021 年度は例年通り貢献ポイントを基に授賞を実施する。表彰については昨年度分も含め大会の表彰式で紹介を行います。

また、試みとして、貢献ポイント集計においては、学会活動への貢献と論文等の品質工学発展に対する貢献との内訳も算出し、それらへの対応も検討します。

さらに、昨年度実施できなかった貢献賞の規程化についてもあらためて着手します。

8.6. 規程整備

今年度は、引き続き、法人化以前に制定された暫定規程の改定を促すと共に、未だ整備できていない倫理規程、理事監事選任規程、表彰規程、就業規程、文書管理規程等のうちいくつかについては制定作業に着手します。

2021 年度 主要活動予定

以上

※ 各部会・委員会ごとの詳細につきましては、付録「2020 活動報告& 2021 活動計画(詳細)」を参照ください。

報告

(2) 2021 年度収支予算案

予算策定方針と各科目の計上理由 予算案・・・総合計

※ 予算案「総合計」は、下記の予算をまとめて表記しております。

記

1. 一般会計
2. 特別会計
 - 2.1. 学生賞特別会計
 - 2.2. 地震予知 MT システム研究特別会計
 - 2.3. 田口賞特別会計

方針と各科目の計上理由

1) 予算作成方針

2021 年度予算は、先の見えない新型コロナウイルスによる緊急事態宣言や蔓延防止措置を受け、研究発表大会等イベントのリモート開催を前提としつつも、それ以外については例年並みの活動を前提とし、昨年が続いて意図的に事業収支を赤字(約 50 万円)にとり、その分については、黒字の年度に積み立てました「学会活動積立金」より補填することで、収支均衡の予算として策定しました。

コロナ禍による自粛要請は今年度中も続くものと思えますが、関係各位におかれまして、対策に考慮しつつも、過度に縮小することなく、工夫しながら将来に向けた活動をお願いします。

ワクチン接種等の状況を鑑みましても、今年度中にコロナ以前の例年通りの活動ができるかは甚だ不透明であります。しかしながら、まだ最悪の場合でも、耐えうる体力は有しておりますので、必要以上の遠慮なく予算を活用し学会活動を実のあるものにしていただけたらと思つての予算案であります。

- (1) 各収支科目については、各部会、委員会の見込み・要求をベースに、過去の実績も勘案して算定計上しております。
- (2) 個々の事業活動、特に大会などのイベントにつきましては、リモート開催のメリットである会場費・資料代等の節約を見込んだ予算であります。
- (3) 田口賞、学生賞、地震予知 MT システム研究会の経費についてはそれぞれの特別会計から費用を補填し、また貢献賞作成費用は貢献賞基金積立金を取り崩して財源としています。
- (4) 各部会・委員会ごとに自由に使える経費を、一昨年、昨年度に引き続き計上しました。赤字予算ではありますが、若干減額しましたもののあえて継続します。各々の活動の活発化・積極化を狙ったものでありますので、部会/委員会の裁量で活動を広げるために活用ください。

2) 各科目の計上理由

予算書の算定根拠欄を参照ください。

品質工学会 2021年度 予算案

2021/6/25

総務部会

I 事業活動収支の部 (収入)		2019	2020	2021	
		実績	実績	予算案	算定根拠等
総務部会	入会金 収 入	151,000	88,000	84,000	正会員40名(引継ぎ除く),学生会員×4名
	【入会金 収 入】	151,000	88,000	84,000	
総務部会	正会員会費 収入	11,885,000	10,645,000	10,872,000	継続1054(うち海外21,名誉11)+新規40名
	学生会員会費収入	25,500	12,000	27,000	継続5+新規4名
	賛助会員会費収入	4,425,000	4,575,000	4,050,000	25団体 27口
	【年度会費 収入】	16,335,500	15,232,000	14,949,000	
出版部会	出版物収入	250,761	203,133	200,000	学会誌販売、版權料など 過去2年実績 並
	掲載広告料	1,134,000	786,000	750,000	前年実績 並
発表大会 実行委	研究・参加費	4,896,000	0	3,000,000	有料参加300名(?)
	研究・懇親会費	426,000	0	0	開催せず
	研究・予稿購読	301,200	28,800	30,000	購読30セット(?)
戦略大会 実行委	技術・参加費	1,090,000	840,000	900,000	会員80名+非会員5名
	技術・懇親会費	182,000	0	0	開催せず
事業部会	企交・参加費	0	788,000	360,000	リモート40名×9,000円
	企交・懇親会費	0	0	0	50名
	経営・講演会参加費	0	170,000	200,000	有料のべ20名×10,000円
	経営・講演会懇親会費	0	0	0	開催せず
審査表彰部会	特別講座参加費	130,000	190,000	200,000	10人×3回(パラメータ設計、MT法、ツール)
	資格制度申請登録料	37,500	22,500	25,000	申請12+登録6
総務部会	【事 業 収 入】	8,447,461	3,028,433	5,665,000	
	財回助成金収入	176,200	350,800	180,000	前年実績 並
総務部会	【受取補助金等収入】	176,200	350,800	180,000	
	一般寄付金	1,160,000	810,000	150,000	確実そうところ
	貢献賞寄付金	20,000	140,000	50,000	例年実績 並
総務部会	【寄付金収入】	1,180,000	950,000	200,000	
	受取利息 収入	294	325	300	前年実績 並
	【受取利息 収入】	294	325	300	
	事務所立ち退き料	2,400,000			...
	雑 収 入	15,600	3,102,496	150,000	給付金は無いものとして例年実績 並
	【雑 収 入】	2,415,600	3,102,496	150,000	
【事業活動収入計】		28,706,055	22,752,054	21,228,300	

I 事業活動収支の部 (支出)		2019	2020	2021	
		実績	実績	予算案	算定根拠等
出版部会	学会誌作成費	5,136,101	5,413,852	4,800,000	6号→4号(頁数同等)ながら若干の経費削減で4号×120万円
	学会誌外注委託	353,261	341,559	350,000	2019～2020年並
	学会誌発送費	964,119	934,633	600,000	前年実績÷6号×4号
	出版部会費	1,280		80,000	※部会付き雑費
発表大会 実行委	研究・会場費	894,019		400,000	※船堀キャンセル料、統数研は無料
	研究・論文印刷	1,018,423		180,000	※電子化で印刷業者への支払い
	研究・大会経費	811,405	23,100	10,000	諸経費
	研究・懇親会費	632,678		0	※非開催
	研究・委員会費	4,888		10,000	※委員会付き雑費(交通費含む)
	研究・ICRQE2021準備費	211,440	96,800	80,000	委員会、備品費用
戦略大会 実行委	技術・会場費	280,390		0	※星稜會館でのリアル開催を止めリモート開催
	技術・資料印刷	341,282	38,566	0	※電子化のため不要
	技術・大会経費	160,155	16,254	150,000	諸経費
	技術・懇親会費	232,720		0	※非開催
事業部会	技術・委員会費	54,860	9,846	80,000	※委員会付き雑費(交通費含む)
	企交・経費	0	99,872	100,000	※リアル開催を止めリモート開催(資料、弁当、バス、旅費なし)
	企交・懇親会費	0		0	※非開催
	経営講演会・会場費	0		0	※次世代経営研究会: 定例会4回すべてリモート開催、
	経営講演会・懇親会費	0		0	
	経営講演会・経費	0	63,651	100,000	
	教育・教材制作保守費	41,140	43,312	115,000	Web教育ツール、保守費、交通費、* 講座回数増
	教育・講師費	99,729	42,450	150,000	講師謝礼、* 講座回数増
	新規・商品開発プロジェクト費	90,613		80,000	弁当代10人×6回(残り6回はJSQC負担)+資料作成費
	資格認定経費	25,390		80,000	審査10+登録6
審査表彰部会	事業部会費			80,000	※部会付き雑費
	田口賞審査経費			150,000	記念品、交通費等、ツール作成費 ※ 田口賞特別会計より
	学生賞審査経費	29,700	68,750	70,000	記念品、交通費等 ※ 学生賞特別会計より
	その他審査経費	120,555	11,000	130,000	上記以外の審査経費
Vision30 企業普及委	審査表彰部会費		91,488	150,000	発表/論文レビュー経費、部会付き雑費
	Vision30プロジェクト支出			40,000	前年予算 並
研究会連携委	企業普及委員会費			80,000	※委員会付き雑費(交通費含む)
	研究会連携委員会費		693	80,000	※委員会付き雑費(交通費含む)
学校教育委	学校教育委員会費			80,000	※委員会付き雑費(交通費含む)
	地震予知委員会支出			40,000	2018年実績 弱 ※ MTシステム特別会計より
	農水省プロジェクト支出			40,000	今年度こそ
	技術向上委員会費	47,336		80,000	※部会付き雑費(交通費含む)
【事業費 支 出】		11,551,484	7,295,826	8,385,000	

広報部会	宣伝活動費	391,480	16,500	400,000	一昨年実績 並・・・ 日刊工業新聞大会特集
	公式WEB経費	97,356	45,436	200,000	会員サービスをさらに充実
総務部会	広報部会費			120,000	※部会付き雑費+α
	貢献賞記念品費	129,503	268,025	100,000	金×4、銀×4、銅×3、ケース×27+額×?
	会長・実行委員長賞記念品費	42,498		50,000	会長賞・実行委員長賞記念品作成費 前年実績並み
	労務費	5,557,788	4,725,803	5,000,000	派遣1名
	事務費	1,032,055	747,511	800,000	昨年実績(リモート無し) 並
	印刷・通信費	1,293,111	1,039,953	1,000,000	昨年実績(リモート無し) 並
	総務部会費	1,283,293	331,950	250,000	前年実績-α
	会計・税理	1,091,500	1,105,500	1,100,000	月締め+決算+税務
	事務所賃借料	3,018,400	3,000,000	3,250,000	12カ月+更新1カ月
	会員DBメンテ				
	WEBメンテ	924,080	860,640	1,000,000	前年実績+カード決済ページ新設
	IT設備費	32,282	155,244	70,000	ネット会議用設備
	J-Stage経費				
	【管理費 支出】	16,086,370	12,296,562	13,340,000	
	【事業活動支出計】	27,637,854	19,592,388	21,725,000	
(事業活動収支差額)		1,068,201	3,159,666	-496,700	

II 投資活動収支の部

勘定科目	2019	2020	2021	
	実績	実績	予算案	算定根拠等
貢献賞積立引当取崩収入	129,503	501,025	200,000	受賞記念費長の貢献賞メダル作成費に充当
学会活動積立金取崩収入			500,000	事業活動収支の補填
周年記念積立引当取崩収入	540	550	200,000	創立30周年事業の準備経費に充当
退職給与引当預金取崩収入	800,880			
田口賞引当預金取崩収入			150,000	田口賞審査経費に充当
学生賞引当預金取崩収入		98,750	70,000	学生賞審査経費に充当
地震予知引当預金取崩収入			30,000	地震予知委員会支出に充当
【特定資産取崩収入】	930,923	600,325	1,150,000	
差入敷金取崩収入	1,440,000			
【敷金・保証金戻り収入】	1,440,000	0	0	
【投資活動収入計】	2,370,923	600,325	1,150,000	
貢献賞積立金積立支出	20,012	373,012	50,000	貢献賞寄付金を積立
学会活動積立金積立支出				
周年記念積立金積立支出	99	102		
退職給与引当金支出				
田口賞積立金積立支出				
学生賞積立金積立支出				
地震予知積立金積立支出				
【特定資産取得支出】	20,111	373,114	50,000	
棚卸廃棄支出	277,286	518,843	250,000	
【固定資産取得支出】	277,286	518,843	250,000	
敷金支出	1,500,000			
【敷金・保証金支出】	1,500,000	0	0	
【投資活動支出計】	1,797,397	891,957	300,000	
(投資活動収支差額)	573,526	-291,632	850,000	

III 財務活動収支の部

勘定科目	2019	2020	2021	
	実績	実績	予算案	算定根拠等
租税公課	40	45	5,000	印紙税等
法人税等	70,000	70,000	70,000	法人住民税 7万円、法人所得税 0円
【その他財務活動支出】	70,040	70,045	75,000	
【財務活動支出計】	70,040	70,045	75,000	
(財務活動収支差額)	-70,040	-70,045	-75,000	

IV 予備費支出

勘定科目	2019	2020	2021	
	実績	実績	予算案	算定根拠等
【予備費】	0	0	278,300	

当期 総収支

(当期 収支差額)	1,571,687	2,797,989	0
前期繰越収支差額	4,143,525	5,715,212	8,513,201
(次期繰越収支差額)	5,715,212	8,513,201	8,513,201

紹介

(1) 2021 年度支援会員の紹介

定款運用細則第 5 条に基づき、下記の 6 名(非会員 1 名、正会員 5 名)の皆様に「支援会員」の称号を授与し、学会への貢献を称えます。

支援会員 齊藤 順子、佐々木 市郎、土屋 元彦、
矢野 耕也、矢野 宏、吉野 莊平 (敬称略、五十音順)

(参考) 定款運用細則 第 5 条

1. 1 年間に 1 口 1 万円、1 口以上の寄付を行った個人に、1 事業年度を限度に、支援会員の称号を授与する。
2. 支援会員の称号は、会員又は会員以外の者の善意に敬意を表するものであり、前条に定める会員の特典等は、支援会員はこれを有しない。

(2) 2020 年度品質工学会貢献賞受賞者の紹介

品質工学会では、品質工学の発展と学会の活動や行事に貢献していただいた会員に、その努力を称えて貢献賞を授与します。

2020 年度、新たに受賞されたみなさんは以下であります。(得点順、敬称略)

金賞: 細井 光夫、太田 勝之、近藤 芳昭、植 英規 … (4 名)

銀賞: 武重 伸秀、針幸 達也、坂川 義満、高辻 英之 … (4 名)

銅賞: 河田 直樹、見原 文雄、伊勢 大成 … (3 名)

入賞: 和田 貴秀、角 有司、水田 匡彦、今津 貴文、
林 航洋、飯島 清高、満嶋 弘二、西野 精一、
小林 宗和、石田 雄二、坂本 新、椿 広計 … (12 名)

※ 会員ご自身の貢献賞得点につきましては、学会ホームページ上で確認いただけます。下記をご参照ください。

品質工学会ホームページ 会員専用ページ ⇒ 事務手続き(事務局ページ) ⇒ 会員ログイン

⇒ 会員登録情報確認・変更 ⇒ 登録情報確認・変更(こちらの上段に記載)

貢献賞

この賞は、学会活動および学会外の品質工学に関する活動に対して貢献点を与えて、累積得点が 100 点に達したときに貢献賞入賞(賞状)、200 点に達したときに銅賞(銅メダル)、300 点に達したときに銀賞(銀メダル)、400 点に達したときに金賞(金メダル)が授与されるものです。会員の皆様は、おおいに頑張って得点の高い賞を狙ってください。品質工学会貢献賞得点基準に基づく貢献得点は、下表の通りです。

貢献賞得点 配分表 (抜粋)

点数	項 目	点数	項 目
1	学会誌校正 会員歴 貢献賞基金(1 ポイント/1000 円) 学会誌後書き アンケート協力	5	大会発表 大会役割 会計監査 学会誌編集委員 大会遠隔地委員 大会当日実行委員
2	公認研究会会員 学会誌投稿(広場・会員紹介・会員の声) 学会誌査読、校正 会員推薦 論文アブストラクト英訳 アンケート協力 (詳細意見添付)	8	学会誌論文賞銀賞 大会発表賞銀賞 副会長
3	発表大会参加 代議員 認定研究会委員 学会誌投稿(視点・機能性評価・グループ紹介) 大会実務 大会司会	10	学会誌論文賞金賞 ASI 賞 大会発表賞金賞 日本規格協会理事長賞 本部役員 学会誌論文 大会講演 大会論文発表 大会実行委員長 大会実行委幹事 会長
4	各部会実務 社内外で事例発表		
5	論文賞・大会賞・ASI 賞審査担当 各部会委員		

【貢献賞特別基金】へのご協力のお願い

貢献賞は皆様からの寄付金による特別基金によって運用しております。

この特別基金は、個人 1 口 2,000 円、法人 1 口 10,000 円として寄付を募っており、何口でも受付いたします。また、個人会員に対する特典として、寄付 1 口を 2 点として貢献点に加算させていただきますので、主旨をご理解の上ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2021 年 6 月 25 日

2021 年度 定時社員総会 資料

一般社団法人 品質工学会

〒101-0061 東京都千代田区神三崎町 2-16-9

新星ブルービル 4F

URL : <http://www.rqes.or.jp/>

TEL : 03-6268-9355

FAX : 03-6268-9350

